乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

研究代表者	中島　　一	（あまのこどもえん副園長）
共同研究者	清水　益治	（帝塚山大学教育学部長）
	千葉　武夫	（聖和短期大学学長）
	森　　俊之	（仁愛大学教授）
	西村　重稀	（仁愛大学名誉教授）
	成田　朋子	（名古屋柳城短期大学名誉教授）
	水上　彰子	（富山福祉短期大学非常勤講師）
	青井　夕貴	（仁愛大学准教授）
	吉岡　眞知子	（東大阪大学学長）
	波田　埜英治	（聖和短期大学准教授）
	碓氷　ゆかり	（聖和短期大学教授）

研究の概要

保育所保育指針等の改定にともない、園の保育の理念や方針などを見直したかどうかを尋ねた結果、「保育の理念」「保育の方針」「保育の目標」については、「見直しをしたが修正はしなかった」という回答がもっとも多かったが、「保育の計画」「記録の書式」については「見直しをして修正した」という園が多かった。保育の内容の評価については、多くの園で保育内容の評価が行われており、園長や主任保育士・主幹教諭などの管理職を中心に複数の者で評価しているところが多く、評価の方法は指導計画等書類から評価しているというところが多くみられた。

乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育にあたり理解しておくべき14項目をかかげ、それを保護者等に説明できるか（保護者への説明力）という観点と、乳児保育の３つの視点と１歳以上３歳未満児の５領域に含まれる項目をかかげ、その内容を含む指導計画を立てられるか（指導計画立案力）という観点の２点から、保育者の資質や能力を捉えようとした。その結果、14項目の保護者への説明力については、いずれの項目でも「教えてもらってできる」「自分の力でできる」という回答が多く、「他の保育者を指導できる」「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」という回答は少なかった。また、指導計画立案力についても、いずれの項目においてもその内容を含む指導計画を「自分の力で立てられる」という回答が多かったが、「他の保育者を指導できる」という回答は多くなかった。その意味では、現状の乳児や１歳以上３歳未満児の保育担当者にはある程度の資質や能力があると評価できるが、リーダー的な資質や能力の育成が課題として示された。また、14項目の説明力の結果を詳細にみると、「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」はできないという回答が比較的多かったことから、これらの項目は、今後、高めていくべき資質・能力の一つといえる。

乳児や３歳未満児の保育を実施するにあたり理解しておくべき14項目について、園外研修、園内研修の受講状況を尋ねた結果、必ずしも十分な研修がなされているとはいえないものであった。とくに０、１、２歳児担当者においては、園外研修・園内研修いずれをみても、半数近いもの（項目によっては半数を超えるもの）が受講していないという回答をしていた。その意味では、まずは研修の機会を全体的に増大させる必要があると考えられる。項目別に詳細に結果をみると、14項目のなかでも、とくに「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」については、研修を受講していないという回答が多かった。これらの項目は、保護者等への説明も比較的できないという回答者が多い項目でもあり、研修の少なさが資質・能力の低さにつながっている可能性が考えられ、今後、とくにこの領域での研修の機会が増えることが望まれる。

研修を受けていないもの、１回研修を受けたもの、複数回研修を受けたものという３群にわけて、乳児保育

や１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたり理解しておくべき14項目の説明力を比較したところ、研修を受けていない者よりも研修を受けた者、１回研修を受けた者より複数回研修を受けた者の方が、説明力が高いことが示され、研修が有効に作用していることが確認された。こうした点もふまえ、今後、乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育のための研修の機会が増えることが求められる。

キーワード：研修、乳児保育、３歳未満児の保育、保護者への説明力、指導計画立案力

Ⅰ．研究の背景と問題

平成30年の保育所保育指針の改定にともない、あらたに乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関する記載が充実した。前の保育所保育指針では、保育の内容の記載の大綱化により、子どもの年齢に応じた保育の内容の記載がなされなかったが、あらたな保育所保育指針では、乳児保育、１歳以上３歳未満児の保育、3歳以上児の保育という３つに分けた形で、保育の内容が記載された。１歳以上３歳未満児においては、３歳以上児と同じように、従来の保育内容の５領域に沿って、あらたに保育のねらいと内容が記述された。乳児保育においては、発達の諸側面が未分化であるため、５領域ではなく、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」という３つの視点から保育のねらいと内容が整理された。乳児期から幼児期、さらには学童期へ向けて、子どもの育ちの接続や連続性を意識することが求められており、そのためには乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を担当する保育者の資質・能力を高めることが必要である。保育者にはどのような資質・能力を高める必要があり、その資質・能力を高めるためには、保育所等はどのような研修を職員に行う必要があるのか、その研修で保育がどのように充実するのかなどを明らかにする必要がある。

漁田ら（2018）は、保育士等キャリアアップ研修「乳児保育」に出席した保育士等を対象に困ったり勉強不足を感じたりしていることを調査している。その結果、最も困ったり勉強不足を感じたりした項目として、「新保育指針」があげられ、半数を超える保育者が勉強不足であると回答していた。また、具体的な自由記述としてあげられた課題としては「保護者への対応」、「１、２歳児の発達と対応」、「環境設定（屋内外）」、「複数担任と正副のあり方」などがあげられていた。さらに漁田ら（2020）は、やはり保育士等キャリアアップ研修「乳児保育」でのグループワークを通して、困ったり勉強不足だと感じたりしている項目として、「保護者への対応」「１、２歳児の発達と対応」「環境設定」「担当制」「複数担任と正副のあり方」が多いことを報告するとともに、グループワークで解決できる問題と解決できない問題があることを報告している。

近年では、乳児保育の質の向上に資する理論や実践を深めることをめざしたKAKEN研究プロジェクトも多い。永井ら（2020）は、バーンアウトした保育者を研究対象とすることで、乳児保育を担当する保育者のキャリア形成における課題を明らかにし、就業継続を促すための園内研修プログラムを策定しようと試みている。また、遠藤ら（2021）は、乳児保育の食をテーマにした園内研修において対話を通した学び・協働のプロセスを事例的に描き出すことで、園の実情に応じた自律的な質向上への取り組みを支える支援のあり方を提案しようと試みている。

著者らの研究グループでは、保育所保育指針改定後に、乳児保育の３つの視点と１歳以上３歳未満児の５領域のねらい及び内容に関して、指導計画の作成やそれに基づく指導体制について見直しなどを実施しているかどうかを調査した（碓氷ら，2020）。その結果、多くの園で見直しなどが実施されており、保育所保育指針の改定に「対応できている」園が多いことが示された。その一方で、乳児保育に関する研修を受けている保育者は多くなく、保育者個人の資質・能力を高めることが、保育の質とどのように関係するのかを調べることを課題としていた。

そこで本研究では、「乳児保育」と「１歳以上３歳未満児の保育」の内容を充実させるための研修について検討することを目的とする。具体的には、以下の点を明らかにするアンケート調査を実施する。

①乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育の実施状況
②乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施している保育者の資質・能力
③乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施している保育者が受けた研修の内容と方法

Ⅱ．研究の方法

保育所および幼保連携型認定こども園の管理職および０歳児、１歳児、２歳児の担当保育者を対象としたアンケート調査を実施した。

（1）調査対象

全国の保育所および認定こども園から無作為抽出した1,598園で働く、管理職および０歳児、１歳児、２歳児の担当保育者を調査対象とした。うち８園は、調査票を郵送できなかった住所不定などにより差し戻されたため、結果的には1,590園宛に郵送したこととなる。１園あたり管理職用１部と、０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用各３部の計10部を郵送し、それぞれ回答を求めた。管理職用については、その園の園長、副園長、教頭、主任保育士、主幹保育教諭等のいずれかの方に回答してもらった。０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用の各３部については、それぞれの年齢児を担当している保育者から、①主担当として関わっている人、②経験年数が中程度の人、③新卒を除き最も経験年数が少ない人という形で３人の方に回答してもらうよう依頼した。

（2）調査内容

管理職用、０歳児担当保育者用、１歳児保育担当者用、２歳児担当保育者用という４種類の調査票を作成した。

管理職用の調査票では、まず、各園の施設種別や児童・保育者の人数などを尋ねるとともに、保育所保育指針等の改定にともない園の理念や保育の計画などの見直しをしたかどうかを尋ねた。次に、乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関する研修などの管理職自身の受講状況や、園での実施状況を次の14項目別に尋ねた。すなわち、①乳児保育の役割と機能、②乳児保育の現状と課題、③乳児保育における安全な環境、④乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境、⑤他職種との協働、⑥乳児保育における配慮事項、⑦乳児保育における保育者の関わり、⑧乳児保育における生活習慣の援助や関わり、⑨保育所保育指針について、⑩乳児の発達と保育内容、⑪１歳以上３歳未満児の発達と保育内容、⑫全体的な計画に基づく指導計画の作成、⑬観察を通しての記録及び評価、⑭評価の理解及び取組、以上の14項目である。この14項目は、平成29年４月１日付の厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（雇児保発0401第１号）で示された「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」の分野別リーダー研修の内容において、乳児保育分野の具体的な研修内容（例）として示されている14項目を用いることとした。また、その14項目について、管理職自身がその内容をどの程度保護者に説明できるか尋ねることで、乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育の担当者としての資質・能力（説明力）を測定することとした。調査票の最後に、回答者個人の役職や保育経験などについても尋ねた。

０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用の調査票では、まず、管理職用の調査票と同様に14項目を提示して園外研修や園内研修の受講状況について尋ねた。また、その14項目について、その内容をどの程度保護者に説明できるかを尋ねることで、乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育の担当者としての資質・能力（説明力）を測定した。併せて、０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用の調査票では、担当する年齢児の保育内容について詳細に指導計画を立てられるかどうか（指導計画の立案力）について尋ねた。この指導計画の立案力については、０歳児担当保育者用では乳児保育に関する３つの視点毎に、１歳児、２歳児担当保育者用では５領域毎に、10項目ずつを設定して、それぞれの項目を含んだ指導計画を立てることができるかを尋ねた。これらの各項目については、碓氷ら（2020）で使用したものと同じものを用いた。調査票の最後に、回答者個人の保育経験などについて尋ねた。

（3）手続き

(2)で作成した調査票を、(1)で説明した全国の保育所および認定こども園から無作為抽出した1,598園宛に、７月22日に郵送依頼した。うち８通は住所不定などにより差し戻されたため、結果的には1,590園宛に郵送したこととなる。１園あたり管理職用１部と、０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用各３部の計10部を郵送し、それぞれ回答を求めた。０歳児、１歳児、２歳児担当保育者用の各３部については、それぞれの年齢を担当しているものから、①主担当として関わっている人、②経験年数が中程度の人、③新卒を除き最も経験年数が少ない人という形で３人の方に回答してもらうよう依頼した。

回答は調査票の用紙を返送してもらう形式ではなく、インターネット上で指定のGoogleフォームに回答を記入してもらう形式だった。Googleフォームへのアクセスは、アクセス先のURLとQRコードを調査票に提示し、回答者各自のパソコンまたはスマートフォンにて回答してもらった。

８月末までに回答にあったものを分析対象とした。回答のあった件数は、管理職用109件、０歳児担当保育者用233件、１歳児担当保育者用263件、２歳児担当保育者用254件であった。

（4）倫理的配慮

調査票への回答の依頼にあたっては、回答者の自由意思で参加していただくものであること、協力しない場合であっても不利益は被らないこと、匿名にて回答いただき個人情報は守られること、データは厳重に保管し研究目的以外に利用しないことなどを書面にて説明し、同意いただいた方に回答をしてもらうようにした。

Ⅲ．結果

３－１．管理職対象の調査の結果について

今回の調査は、管理職用、０歳児担当保育者用、１歳児担当保育者用、２歳児担当保育者用のアンケートについて、Googleフォームにて回答を求めたため、それぞれの調査毎に結果をまとめる。まずは、管理職対象のアンケート調査の結果についてまとめる。

（1）回答者について（施設、属性）

回答者の施設の運営主体

施設の運営主体について、「市区町村」「社会福祉法人」「学校法人」「その他」の４つの選択肢を設けて回答を求めたところ、「市区町村」は16施設（14.7%)、「社会福祉法人」は68施設（62.4%)、「学校法人」は13施設（11.9%)、「その他」12施設（11.0%）であり、社会福祉法人が運営している施設が半数以上ともっとも多かった（表1)。

表1　回答者の施設の運営主体（n=109）

市区町村	16(14.7%)
社会福祉法人	68(62.4%)
学校法人	13(11.9%)
その他（一般社団法人、宗教法人、株式会社、有限会社）	12(11.0%)

回答者の施設の種別

施設種別について、「保育所」「幼保連携型認定こども園」「認定こども園（保育所型)」「認定こども園（幼稚園型)」「認定こども園（地方裁量型)」の５つの選択肢を設けて回答を求めたところ、「保育所」が63施設（57.8%)、「幼保連携型認定こども園」が31施設（28.4%)、「認定こども園（保育所型)」が９施設（8.3%)、「認定こども園（幼稚園型)」が５施設（4.6%)、「認定こども園（地方裁量型)」が１施設（0.9%）であった（表2)。

施設種別が幼保連携型認定こども園の場合には、幼保連携型認定こども園になる前のことを尋ねたところ、「保育所」が23施設（74.2%)、「幼稚園」が７施設（22.6%)、「新しく創設した」が１施設（3.2%）であった（パーセンテージは、幼保連携型認定こども園31施設を母数として算出)。

表2　回答者の施設の種別（n=109）

保育所	63(57.8%)
幼保連携型認定こども園	31(28.4%)
認定こども園（保育所型）	9(8.3%)
認定こども園（幼稚園型）	5(4.6%)
認定こども園（地方裁量型）	1(0.9%)

→内訳　幼保連携型認定こども園の以前の施設形態（n=31）

元　保育所	23(74.2%)
元　幼稚園	7(22.6%)
新しく創設	1(3.2%)

回答者の施設の規模

０歳児、１歳児、２歳児それぞれの定員と在籍数を尋ねた結果を表3にまとめた。０歳児については６～10人程度の定員を設定している施設が多く、１歳児や２歳児については16～20人程度の定員を設定している施設が多かった。実際の在籍数については、０歳児および１歳児については定員よりやや少ない人数の施設が多く、２歳児については定員前後の人数の施設が多かった。

各年齢を担当する保育者数を尋ねた結果を表4にまとめた。０歳児は担当保育者数が２人という施設がもっとも多く、１歳児は担当保育者数が３人、２歳児は担当保育者数が４人という施設がもっとも多かった。いずれの年齢についても担当保育者数が２～４人という施設が多かった。０歳児を担当する保育者がいない施設もわずかにみられた。

回答者（管理職）の属性

管理職用アンケートを回答した回答者の職位を尋ねた結果を表5にまとめた。もっとも多かったのが「主任保育士」で41人（37.6%)、ついで多かったのは「園長」で31人（28.4%）であった。

管理職用のアンケートを回答した回答者が保育士資格を有しているか尋ねたところ、105人（96.3%）が保育士資格を有していると回答した（表6)。また、回答者が乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育の経験を有しているか尋ねたところ、12人（11.0%）は「経験なし」と回答したが、多くの者は一定程度の乳児保育や１歳以上３歳未満児の経験を有していた（表7)。

表3　園児の定員数と在籍数に基づく施設の分類（n=109）

	0 歳児		1 歳児		2 歳児	
人数区分	定員	在籍数	定員	在籍数	定員	在籍数
0人	3(2.8%)	5(4.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
1～5人	16(14.7%)	40(36.7%)	7(6.4%)	15(13.8%)	3(2.8%)	12(11.0%)
6～10人	47(43.1%)	39(35.8%)	25(22.9%)	21(19.3%)	18(16.5%)	14(12.8%)
11～15人	23(21.1%)	14(12.8%)	23(21.1%)	30(27.5%)	19(17.4%)	22(20.2%)
16～20人	6(5.5%)	4(3.7%)	28(25.7%)	16(14.7%)	31(28.4%)	21(19.3%)
21～25人	2(1.8%)	0(0.0%)	9(8.3%)	18(16.5%)	14(12.8%)	25(22.9%)
26～30人	0(0.0%)	0(0.0%)	5(4.6%)	5(4.6%)	6(5.5%)	9(8.3%)
31人以上	0(0.0%)	0(0.0%)	4(3.7%)	3(2.8%)	7(6.4%)	4(3.7%)
未回答	12(11.0%)	7(6.4%)	8(7.3%)	1(0.9%)	11(10.1%)	2(1.8%)

表4　担当保育者数に基づく施設の分類

保育者の人数	0 歳児	1 歳児	2 歳児
0人	4(2.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
1人	13(14.7%)	8(36.7%)	7(6.4%)
2人	28(43.1%)	21(35.8%)	24(22.9%)
3人	24(43.1%)	30(43.1%)	21(43.1%)
4人	24(43.1%)	21(43.1%)	29(43.1%)
5人	9(21.1%)	11(12.8%)	13(21.1%)
6人以上	9(5.5%)	16(3.7%)	11(25.7%)
未回答	7(1.8%)	2(0.0%)	4(8.3%)

表5　回答者（管理職）の職位（n=109）

園長	31(28.4%)
副園長	16(14.7%)
教頭	2(1.8%)
主任保育士	41(37.6%)
主幹保育教諭	13(11.9%)
その他	6(5.5%)

表6　回答者（管理職）の保育士資格の有無（n=109）

もっている	105(96.3%)
もっていない	4(3.7%)

表7　回答者（管理職）の乳児保育と
1歳以上3歳未満児の保育の経験の有無（n=109）

経験なし	12(11.0%)
1～5年	27(24.8%)
6～10年	32(29.4%)
11～15年	14(12.8%)
16～20年	10(9.1%)
21～25年	6(5.5%)
26～30年	5(4.6%)
31年以上	2(1.8%)
回答なし	1(0.9%)

（2）保育所保育指針等の改定後の回答施設の取り組みについて

保育の理念等の見直し

乳児保育に関する３つの視点や１歳以上３歳未満児の５領域のねらい及び内容等が保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に明記されたことに伴い、「保育の理念」「保育の方針」「保育の目標」「保育の計画」「記録の書式」などを園として見直しをしたかどうかを尋ねた結果を表8に示した。「保育の理念」「保育の方針」「保育の目標」については、「見直しをしたが修正はしなかった」という回答がもっとも多く、約半数を占めていた。「見直しをしなかった」という施設も４分の１程度と少なくなかった。一方で、「保育の計画」や「記録の書式」については、「見直しをして修正した」という施設が多く、３分の２を超えていた。「見直しをしなかった」という回答は１割未満と少なかった。

保育内容についての研修の受講とその情報共有

保育所保育指針等に基づく乳児保育の保育内容に関する外部研修を受講した後で、どのように職員間共有を行ったかを尋ねた結果を表9に示した。そもそも「外部研修を受けていない」という回答が７施設（6.4%）であり、多くの施設は何らかの形で外部研修を受けているという結果であった。「研修報告書を資料として、会議で研修報告を行った」という施設が44施設（40.4%）ともっとも多く、ついで「研修報告書を回覧した」という施設が31施設(28.4%)、「受講者が講師となり園内研修を行った」という施設が15施設（13.8%）であった。「受講者が講師となり園内研修を行い、それに基づいて保育内容を修正した」という施設も４施設（3.7%）とわずかではあるがみられた。一方で、「外部研修は受けたが、職員間共有はしていない」という回答も８施設（7.3%）みられた。

保育所保育指針等に基づく乳児保育の保育内容に関する外部研修を、どのような職員が受講したかを、該当するものすべてを選んでもらう形式で尋ねた結果を、表10に示した。もっとも参加が多かったのは「乳児（３歳未満児を含む）クラス担任」70施設（64.2%)、「乳児（３歳未満児を含む）クラス主担任」64施設（58.7%）であり、ついで「主任保育士・主幹教諭」58施設（53.2%）であった。複数の職員が受講している施設も多く、もっとも多いところでは８種類の職種にまたがって参加している施設もみられた。

表8　保育所保育指針等の改定に伴う保育の理念等の見直しの有無（n=109）

	見直していない	見直したが修正はしていない	見直して修正した
保育の理念	29(26.6%)	50(45.9%)	30(27.5%)
保育の方針	25(22.9%)	52(47.7%)	32(29.4%)
保育の目標	20(18.3%)	51(46.8%)	38(34.9%)
保育の計画	8(7.3%)	20(18.3%)	81(74.3%)
記録の書式	8(7.3%)	27(24.8%)	74(67.9%)

表9　乳児保育の保育内容の外部研修受講後の職員間共有のありかた（n=109）

受講者が講師となり園内研修を行い、それに基づいて「保育内容」を修正した	4(3.7%)
受講者が講師となり園内研修を行った	15(13.8%)
研修報告書等を資料として、会議で研修報告を行った	44(40.4%)
研修報告書を回覧した	31(28.4%)
外部研修は受けたが、職員間共有はしていない	8(7.3%)
外部研修を受けていない	7(6.4%)

表10　乳児保育の保育内容の外部研修を受講したもの（複数選択あり）

園長	37(33.9%)	乳児以外のクラス担任	35(32.1%)
副園長・教頭	20(18.3%)	看護師	6(5.5%)
主任保育士・主幹教諭	58(53.2%)	栄養・調理担当職員	6(5.5%)
乳児クラス主担任	64(58.7%)	事務職員	3(2.7%)
乳児クラス担任	70(64.2%)	その他の職員	4(3.7%)

保育内容の評価

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育の保育内容の評価について、誰が、いつ、どのように行っているかを、選択肢を提示して該当するものすべてを選んでもらう形で回答を求めた。その結果を、表11、表12、表13に示した。

保育内容の評価を行う者については、「園長」が90施設（82.6%）ともっとも多く、ついで「主任保育士・主幹教諭」も70施設（64.2%）と多かった。複数の職員で評価をしているという園もみられ、最大７つの選択肢を選択している施設もみられた。

評価の時期については、「月ごと」という回答が57施設（52.3%）ともっとも多かった。ついで、「年ごと」が41施設（37.6%）、「期ごと」が39施設（35.8%）、「週ごと」が35施設（32.1%）と多かった。複数の時期で評価しているという回答も多くみられた。

評価の方法としては、「指導計画等書類から評価している」という回答が86施設（78.9%）ともっとも多かった。「実際に保育に参加しながら評価している」は52施設（47.7%）、「実際の保育を参観しながら評価している」は40施設（36.7%）であった。

（３）管理職個人の14の内容別の研修の受講状況

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、園外研修と園内研修で、それぞれの内容の研修をどの程度受けたかどうかを尋ねた結果を表14にまとめた。全体的に俯瞰すると、園外研修も園内研修も、「受けていない」「１回受けた」「複数回受けた」という回答が３分の１程度ずつある感じであるが、詳細にみてみると、14の内容により研修の受講の状況はやや異なっていた。「乳児保育における保育者の関わり」や「保育所保育指針について」などは比較的多くの者が研修を受講していた。それに対して、「他職種との協働」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などの内容についての研修は、半数近くの者が受講していないという結果であった。

同じ14項目の内容について、今後の研修受講希望を尋ねた結果を表15にまとめた。いずれの項目も、「園外研修を受けたい」という回答が多く、ほぼ６割を超えていた。

表11　保育内容の評価を行うもの（複数選択あり）

園長	90(82.6%)	乳児以外のクラス担任	9(8.3%)
副園長・教頭	39(35.8%)	園内のその他の職員	3(2.8%)
主任保育士・主幹教諭	70(64.2%)	園外の専門家	4(3.7%)
乳児クラス主担任	30(27.5%)	行っていない	4(3.7%)
乳児クラス担任全員	36(33.0%)		

表12　保育内容の評価の時期（複数選択あり）

毎日	18(16.5%)
週ごと	35(32.1%)
月ごと	57(52.3%)
期ごと	39(35.8%)
年ごと	41(37.6%)
不定期	18(16.5%)

表13　保育内容の評価の方法（複数選択あり）

指導計画等書類から評価している	86(78.9%)
実際に保育に参加しながら評価している	52(47.7%)
実際の保育を参観しながら評価している	40(36.7%)
公開保育を行い評価している	12(11.0%)
保育をビデオにとって評価している	1(0.9%)

表14　管理職の14項目の研修項目の受講状況（n=109）

	園外研修			園内研修		
	受けていない	1回受けた	複数回受けた	受けていない	1回受けた	複数回受けた
(1) 乳児保育の役割と機能	28 (25.7%)	46 (42.2%)	35 (32.1%)	44 (40.4%)	41 (37.6%)	24 (22.0%)
(2) 乳児保育の現状と課題	31 (28.4%)	51 (46.8%)	27 (24.8%)	39 (35.8%)	46 (42.2%)	24 (22.0%)
(3) 乳児保育における安全な環境	26 (23.9%)	50 (45.9%)	33 (30.3%)	31 (28.4%)	45 (41.3%)	33 (30.3%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	33 (30.3%)	44 (40.4%)	32 (29.4%)	33 (30.3%)	42 (38.5%)	34 (31.2%)
(5) 他職種との協働	57 (52.3%)	32 (29.4%)	20 (18.3%)	59 (54.1%)	30 (27.5%)	20 (18.3%)
(6) 乳児保育における配慮事項	34 (31.2%)	43 (39.4%)	32 (29.4%)	35 (32.1%)	46 (42.2%)	28 (25.7%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	28 (25.7%)	44 (40.4%)	37 (33.9%)	34 (31.2%)	41 (37.6%)	34 (31.2%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	35 (32.1%)	42 (38.5%)	32 (29.4%)	37 (33.9%)	39 (35.8%)	33 (30.3%)
(9) 保育所保育指針について	24 (22.0%)	50 (45.9%)	35 (32.1%)	45 (41.3%)	37 (33.9%)	27 (24.8%)
(10) 乳児の発達と保育内容	30 (27.5%)	46 (42.2%)	33 (30.3%)	41 (37.6%)	37 (33.9%)	31 (28.4%)
(11) 1歳以上3歳未満児の発達と保育内容	38 (34.9%)	40 (36.7%)	31 (28.4%)	42 (38.5%)	38 (34.9%)	29 (26.6%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	47 (43.1%)	42 (38.5%)	20 (18.3%)	47 (43.1%)	39 (35.8%)	23 (21.1%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	52 (47.7%)	36 (33.0%)	21 (19.3%)	46 (42.2%)	37 (33.9%)	26 (23.9%)
(14) 評価の理解及び取組	53 (48.6%)	38 (34.9%)	18 (16.5%)	59 (54.1%)	30 (27.5%)	20 (18.3%)

表15　管理職の14項目の研修の今後の受講希望（n=109）

	受けたいと思わない	園外研修を受けたい	園内研修を受けたい	園外研修・園内研修を受けたい
(1) 乳児保育の役割と機能	7 (6.4%)	65 (59.2%)	23 (21.9%)	14 (12.8%)
(2) 乳児保育の現状と課題	4 (3.7%)	70 (64.2%)	21 (19.3%)	14 (12.8%)
(3) 乳児保育における安全な環境	5 (4.6%)	64 (58.7%)	26 (23.9%)	14 (12.8%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	3 (2.8%)	66 (60.6%)	25 (22.9%)	15 (13.8%)
(5) 他職種との協働	5 (4.6%)	72 (66.1%)	21 (19.3%)	11 (10.1%)
(6) 乳児保育における配慮事項	7 (6.4%)	63 (57.8%)	23 (21.1%)	16 (14.7%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	5 (4.6%)	6 2(56.9%)	26 (23.9%)	16 (14.7%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	8 (7.3%)	62 (56.9%)	22 (20.2%)	17 (15.6%)
(9) 保育所保育指針について	6 (5.5%)	71 (65.1%)	20 (18.3%)	12 (11.0%)
(10) 乳児の発達と保育内容	4 (3.7%)	67 (61.5%)	23 (21.1%)	15 (13.8%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	6 (5.5%)	64 (58.7%)	24 (22.0%)	15 (13.8%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	5 (4.6%)	67 (61.5%)	21 (19.3%)	16 (14.7%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	5 (4.6%)	73 (67.0%)	19 (17.4%)	12 (11.0%)
(14) 評価の理解及び取組	5 (4.6%)	77 (70.6%)	14 (12.8%)	13 (11.9%)

（4）管理職個人の14の内容別の説明力

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目をクラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できるかを尋ね、「できない」「どちらかというとできない」「どちらかというとできる」「できる」の４段階で回答を求めた。その結果を、表16に示した。

全体的に俯瞰すると、いずれの項目も「どちらかというとできる」という回答がもっとも多く、ついで「できる」または「どちらかというとできない」という回答が多かった。14の項目により違いがみられ、「乳児保育における保育者の関わり」や「乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」などは「できる」という回答が多かった。一方で、「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などは、「できない」や「どちらかというとできない」という回答が多かった。前述の研修の受講状況と比較すると、「研修を受けていない」という回答の多かった項目と一致する傾向がみられた。

表16　管理職の14項目の説明力（n=109）

	できない	どちらかというとできない	どちらかというとできる	できる
（1）乳児保育の役割と機能	0 (0.0%)	12 (11.0%)	68 (62.4%)	29 (26.6%)
（2）乳児保育の現状と課題	1 (0.9%)	21 (19.3%)	65 (59.6%)	22 (20.2%)
（3）乳児保育における安全な環境	0 (0.0%)	8 (7.3%)	67 (61.5%)	34 (31.2%)
（4）乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	0 (0.0%)	10 (9.2%)	61 (56.0%)	38 (34.9%)
（5）他職種との協働	8 (7.3%)	37 (33.9%)	42 (38.5%)	22 (20.2%)
（6）乳児保育における配慮事項	0 (0.0%)	6 (5.5%)	69 (63.3%)	34 (31.2%)
（7）乳児保育における保育者の関わり	0 (0.0%)	6 (5.5%)	62 (56.9%)	41 (37.6%)
（8）乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1 (0.9%)	11 (10.1%)	62 (56.9%)	35 (32.1%)
（9）保育所保育指針について	2 (1.8%)	28 (25.7%)	59 (54.1%)	20 (18.3%)
（10）乳児の発達と保育内容	1 (0.9%)	11 (10.1%)	68 (62.4%)	29 (26.6%)
（11）１歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1 (0.9%)	9 (8.3%)	70 (64.2%)	29 (26.6%)
（12）全体的な計画に基づく指導計画の作成	1 (0.9%)	28 (25.7%)	62 (56.9%)	18 (16.5%)
（13）観察を通しての記録及び評価	3 (2.8%)	34 (31.2%)	51 (46.8%)	21 (19.3%)
（14）評価の理解及び取組	4 (3.7%)	37 (33.9%)	52 (47.7%)	16 (14.7%)

（５）保育者以外の職員への14の内容についての周知方法

内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目を保育者以外の職員に対してどのように周知しているかを尋ね、「取組をしていない」「園内研修に参加させている」「園外研修に参加させている」「園内・園外研修両方に参加させている」の４選択肢で回答を求めた。その結果を、表17に示した。

全体的に俯瞰すると、「取組をしていない」という回答が多く、項目によって異なるが30～60％の施設が取り組みをしていなかった。研修に参加させている場合も「園内研修に参加させている」という回答が多く、30％程度の施設が園内研修に参加させていた。14の項目による違いもみられ、「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などは、「取組をしていない」という回答が多かった。

表17　保育者以外の職員への14項目の周知方法（n=109）

	取組をしていない	園内研修に参加させている	園外研修に参加させている	園内・園外研修両方に参加させている
(1) 乳児保育の役割と機能	39 (35.8%)	39 (35.8%)	17 (15.6%)	14 (12.8%)
(2) 乳児保育の現状と課題	39 (35.8%)	42 (38.5%)	16 (14.7%)	12 (11.0%)
(3) 乳児保育における安全な環境	35 (32.1%)	40 (36.7%)	17 (15.6%)	17 (15.6%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	44 (40.4%)	32 (29.4%)	16 (14.7%)	17 (15.6%)
(5) 他職種との協働	49 (45.0%)	38 (34.9%)	11 (10.1%)	11 (10.1%)
(6) 乳児保育における配慮事項	33 (30.3%)	46 (42.2%)	17 (15.6%)	13 (11.9%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	41 (37.6%)	37 (33.9%)	16 (14.7%)	15 (13.8%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	38 (34.9%)	42 (38.5%)	15 (13.8%)	14 (12.8%)
(9) 保育所保育指針について	53 (48.6%)	34 (31.2%)	13 (11.9%)	9 (8.3%)
(10) 乳児の発達と保育内容	44 (40.4%)	35 (32.1%)	15 (13.8%)	15 (13.8%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	45 (41.3%)	36 (33.0%)	14 (12.8%)	14 (12.8%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	57 (52.3%)	34 (31.2%)	11 (10.1%)	7 (6.4%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	60 (55.0%)	34 (31.2%)	9 (8.3%)	6 (5.5%)
(14) 評価の理解及び取組	62 (56.9%)	32 (29.4%)	9 (8.3%)	6 (5.5%)

（6）保護者への14の内容についての周知方法

内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目を保護者に対してどのように周知しているかを尋ね、「説明をしていない」「文書配布」「口頭説明」「文書配布・口頭説明の両方」の４選択肢で回答を求めた。その結果を、表18に示した。

項目によって、説明している項目と説明していない項目の差が大きかった。「乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」「乳児保育における保育者の関わり」「乳児保育における生活習慣の援助や関わり」などは何らかの形で説明しているという回答が多かったのに対し、「保育所保育指針について」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などは、「説明をしていない」という回答が多かった。

表18　保護者への14項目の周知方法（n=109）

	説明していない	文書配布	口頭説明	文書配布・口頭説明の両方
(1) 乳児保育の役割と機能	33 (30.3%)	26 (23.9%)	27 (24.8%)	23 (21.1%)
(2) 乳児保育の現状と課題	50 (45.9%)	21 (19.3%)	24 (22.0%)	14 (12.8%)
(3) 乳児保育における安全な環境	23 (21.1%)	25 (22.9%)	39 (35.8%)	22 (20.2%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	15 (13.8%)	28 (25.7%)	42 (38.5%)	24 (22.0%)
(5) 他職種との協働	53 (48.6%)	15 (13.8%)	29 (26.6%)	12 (11.0%)
(6) 乳児保育における配慮事項	19 (17.4%)	21 (19.3%)	41 (37.6%)	28 (25.7%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	15 (13.8%)	23 (21.1%)	46 (42.2%)	25 (22.9%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	13 (11.9%)	27 (24.8%)	40 (36.7%)	29 (26.6%)
(9) 保育所保育指針について	71 (65.1%)	17 (15.6%)	12 (11.0%)	9 (8.3%)
(10) 乳児の発達と保育内容	21 (19.3%)	29 (26.6%)	33 (30.3%)	26 (23.9%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	25 (22.9%)	26 (23.9%)	32 (29.4%)	26 (23.9%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	69 (63.3%)	17 (15.6%)	14 (12.8%)	9 (8.3%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	73 (67.0%)	19 (17.4%)	8 (7.3%)	9 (8.3%)
(14) 評価の理解及び取組	79 (72.5%)	15 (13.8%)	5 (4.6%)	10 (9.2%)

３－２．０歳児担当保育者対象の調査の結果について

（１）回答者（０歳児担当保育者）について

０歳児担当保育者用アンケートに回答のあった者は、全部で233人であった。これまでの保育経験について尋ねたところ、保育所または認定こども園への勤務年数については、１年未満が６人（2.6%）、１年～５年未満が52人（22.3%）、５年～10年未満が67人（28.8%）、10年～15年未満が41人（17.6%）、15年～20年未満が31人（13.3%）、20年以上が35人（15.0%）であった。０歳児担当者としての経験年数については、１年未満が51人（21.9%）、１年～５年未満が129人（55.4%）、５年～10年未満が33人（14.2%）、10年～15年未満が８人（3.4%）、15年～20年未満が４人（1.7%）、20年以上が２人（0.9%）であった。保育士資格の取得方法を尋ねたところ、201人（86.2%）が大学等の養成施設で取得したと回答しており、保育士試験で資格取得した者はわずかに20人（8.6%）あった。また、勤務形態を尋ねたところ、正規職員が180人（77.3%）、非常勤職員が44人（19.0%）、派遣職員が５人（2.2%）であった。

（２）０歳児担当保育者の14の内容別の研修の受講状況

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、園外研修と園内研修で、それぞれの内容の研修をどの程度受けたかどうかを尋ねた結果を表19にまとめた。14の内容により研修の受講の状況はやや異なっており、「他職種との協働」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観

表19　0歳児担当者の14項目の研修項目の受講状況（n=233）

	園外研修			園内研修		
	受けていない	１回受けた	複数回受けた	受けていない	１回受けた	複数回受けた
(1) 乳児保育の役割と機能	95 (40.8%)	94 (40.3%)	44 (18.9%)	134 (57.5%)	51 (21.9%)	48 (20.6%)
(2) 乳児保育の現状と課題	107 (45.9%)	84 (36.1%)	42 (18.0%)	133 (57.1%)	53 (22.7%)	47 (20.2%)
(3) 乳児保育における安全な環境	93 (39.9%)	104 (44.6%)	36 (15.5%)	119 (51.1%)	60 (25.8%)	54 (23.2%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	95 (40.8%)	92 (39.5%)	46 (19.7%)	117 (50.2%)	64 (27.5%)	52 (22.3%)
(5) 他職種との協働	147 (63.1%)	66 (28.3%)	20 (8.6%)	158 (67.8%)	42 (18.0%)	33 (14.2%)
(6) 乳児保育における配慮事項	106 (45.5%)	83 (35.6%)	44 (18.9%)	129 (55.4%)	51 (21.9%)	53 (22.7%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	86 (36.9%)	98 (42.1%)	49 (21.0%)	118 (50.6%)	60 (25.8%)	55 (23.6%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	100 (42.9%)	85 (36.5%)	48 (20.6%)	124 (53.2%)	53 (22.7%)	56 (24.0%)
(9) 保育所保育指針について	95 (40.8%)	92 (39.5%)	46 (19.7%)	131 (56.2%)	59 (25.3%)	43 (18.5%)
(10) 乳児の発達と保育内容	93 (39.9%)	90 (38.6%)	50 (21.5%)	132 (56.7%)	52 (22.3%)	49 (21.0%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	102 (43.8%)	92 (39.5%)	39 (16.7%)	136 (58.4%)	48 (20.6%)	49 (21.0%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	128 (54.9%)	71 (30.5%)	34 (14.6%)	136 (58.4%)	58 (24.9%)	39 (16.7%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	131 (56.2%)	69 (29.6%)	33 (14.2%)	137 (58.8%)	57 (24.5%)	39 (16.7%)
(14) 評価の理解及び取組	135 (57.9%)	70 (30.0%)	28 (12.0%)	146 (62.7%)	52 (22.3%)	35 (15.0%)

察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などの内容についての研修は、半数近くの者が受講していないという結果であった。園内研修については、いずれの項目も「受けていない」という回答が半数以上と多かったのに対し、「複数回受けた」という回答者の割合は園外研修よりも高く、園内研修については実施している園と実施していない園で差がみられることが示された。

同じ14項目の内容について、今後の研修受講希望を尋ねた結果を表20にまとめた。いずれの項目も、「園外研修を受けたい」という回答が多かった。一方で、「園内研修を受けたい」「園外・園内研修を受けたい」という回答も管理職と比べると多かった。

表20　0歳児担当者の14項目の研修受講希望（n=233）

	受けたいと思わない	園外研修を受けたい	園内研修を受けたい	園外研修・園内研修を受けたい
(1) 乳児保育の役割と機能	23 (9.9%)	116 (49.8%)	44 (18.9%)	50 (21.5%)
(2) 乳児保育の現状と課題	16 (6.9%)	122 (52.4%)	44 (18.9%)	51 (21.9%)
(3) 乳児保育における安全な環境	19 (8.2%)	111 (47.6%)	51 (21.9%)	52 (22.3%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	7 (3.0%)	118 (50.6%)	53 (22.7%)	55 (23.6%)
(5) 他職種との協働	39 (16.7%)	104 (44.6%)	47 (20.2%)	43 (18.5%)
(6) 乳児保育における配慮事項	17 (7.3%)	116 (49.8%)	48 (20.6%)	52 (22.3%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	15 (6.4%)	116 (49.8%)	46 (19.7%)	56 (24.0%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	15 (6.4%)	118 (50.6%)	47 (20.2%)	53 (22.7%)
(9) 保育所保育指針について	30 (12.9%)	110 (47.2%)	43 (18.5%)	50 (21.5%)
(10) 乳児の発達と保育内容	19 (8.2%)	112 (48.1%)	51 (21.9%)	51 (21.9%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	19 (8.2%)	110 (47.2%)	52 (22.3%)	52 (22.3%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	23 (9.9%)	106 (45.5%)	52 (22.3%)	52 (22.3%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	26 (11.2%)	101 (43.3%)	51 (21.9%)	55 (23.6%)
(14) 評価の理解及び取組	31 (13.3%)	101 (43.3%)	50 (21.5%)	51 (21.9%)

（３）０歳児担当保育者の14の内容別の説明力

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目をクラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できるかを尋ね、「できない」「教えてもらってできる」「自分の力でできる」「他の保育者を指導できる」「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」の５つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表21に示した。

全体的に俯瞰すると、いずれの項目も「教えてもらってできる」という回答と「自分の力でできる」という回答が多かった。「他の保育者を指導できる」や「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」という回答は少なかった。14の項目により違いがみられ、「乳児保育における保育者の関わり」や「乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」などは「できる」という回答が多かった。一方で、「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などは、「できない」という回答が多かった。前述の研修の受講状況と比較すると、「研修を受けていない」という回答の多かった項目と一致する傾向がみられた。

表21　0歳児担当者の14項目の説明力（n=233）

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	園全体をリードできる
(1) 乳児保育の役割と機能	13 (5.6%)	104 (44.6%)	96 (41.2%)	17 (7.3%)	3 (1.3%)
(2) 乳児保育の現状と課題	16 (6.9%)	115 (49.4%)	87 (37.3%)	13 (5.6%)	2 (0.9%)
(3) 乳児保育における安全な環境	7 (3.0%)	76 (32.6%)	116 (49.8%)	31 (13.3%)	3 (1.3%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	9 (3.9%)	88 (37.8%)	110 (47.2%)	22 (9.4%)	4 (1.7%)
(5) 他職種との協働	42 (18.0%)	120 (51.5%)	56 (24.0%)	13 (5.6%)	2 (0.9%)
(6) 乳児保育における配慮事項	5 (2.1%)	91 (39.1%)	110 (47.2%)	23 (9.9%)	4 (1.7%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	7 (3.0%)	74 (31.8%)	122 (52.4%)	27 (11.6%)	3 (1.3%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	4 (1.7%)	83 (35.6%)	114 (48.9%)	30 (12.9%)	3 (1.3%)
(9) 保育所保育指針について	22 (9.4%)	125 (53.6%)	73 (31.3%)	11 (4.7%)	2 (0.9%)
(10) 乳児の発達と保育内容	12 (5.2%)	89 (38.2%)	106 (45.5%)	22 (9.4%)	4 (1.7%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	17 (7.3%)	97 (41.6%)	96 (41.2%)	19 (8.2%)	4 (1.7%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	22 (9.4%)	98 (42.1%)	91 (39.1%)	18 (7.7%)	4 (1.7%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	24 (10.3%)	95 (40.8%)	94 (40.3%)	19 (8.2%)	1 (0.4%)
(14) 評価の理解及び取組	29 (12.4%)	102 (43.8%)	85 (36.5%)	16 (6.9%)	1 (0.4%)

（4）０歳児担当保育者の乳児保育の３つの視点に沿った指導計画立案力

乳児保育の３つの視点に沿った指導計画をどの程度作成することができるか、各視点について10ずつの項目を設定して、それぞれ「立てられない」「自分の力で立てられる」「他の保育者を指導できる」の３つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表22、表23、表24に示した。

いずれの項目も、多くの保育者（80％程度）が「自分の力で立てられる」と回答していた。「他の保育者を指導できる」という回答も、項目によって違いはあるが10〜20％の者が回答していた。その中で、もっとも「立てられない」という回答が多かったのは、身体的発達に関する視点のなかの「体調に対応した離乳食」であった。

表22　0歳児担当者の身体的発達に関する視点についての指導計画の立案力（n=233）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 心と体の発達の促し	25 (10.7%)	179 (76.8%)	29 (12.4%)	20 (8.6%)	187 (80.3%)	26 (11.2%)
(2) 体を動かす機会の確保	20 (8.6%)	186 (79.8%)	27 (11.6%)	18 (7.7%)	189 (81.1%)	26 (11.2%)
(3) 自ら体を動かそうとする意欲の育成	31 (13.3%)	173 (74.2%)	29 (12.4%)	20 (8.6%)	185 (79.4%)	28 (12.0%)
(4) 生理的・心理的欲求の受け止め	16 (6.9%)	183 (78.5%)	34 (14.6%)	14 (6.0%)	188 (80.7%)	31 (13.3%)
(5) 一人一人の発育に応じた経験の助長	30 (12.9%)	171 (73.4%)	32 (13.7%)	25 (10.7%)	175 (75.1%)	33 (14.2%)
(6) 個人差に応じた授乳	30 (12.9%)	164 (70.4%)	39 (16.7%)	25 (10.7%)	168 (72.1%)	40 (17.2%)
(7) ゆったりとした授乳	26 (11.2%)	167 (71.7%)	40 (17.2%)	21 (9.0%)	174 (74.7%)	38 (16.3%)
(8) 体調に対応した離乳食	37 (15.9%)	157 (67.4%)	39 (16.7%)	28 (12.0%)	166 (71.2%)	39 (16.7%)
(9) 生活リズムに応じた睡眠	19 (8.2%)	167 (71.7%)	47 (20.2%)	14 (6.0%)	176 (75.5%)	43 (18.5%)
(10) 適切なおむつ交換	16 (6.9%)	164 (70.4%)	53 (22.7%)	12 (5.2%)	173 (74.2%)	48 (20.6%)

表23　0歳児担当者の社会的発達に関する視点についての指導計画の立案力（n=233）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 一人一人とのスキンシップ	15 (6.4%)	178 (76.4%)	40 (17.2%)	8 (3.4%)	186 (79.8%)	39 (16.7%)
(2) 甘えなどの依存欲求の充足	15 (6.4%)	181 (77.7%)	37 (15.9%)	13 (5.6%)	182 (78.1%)	38 (16.3%)
(3) 人に触れられて心地よいと感じるような関わり	17 (7.3%)	181 (77.7%)	35 (15.0%)	14 (6.0%)	181 (77.7%)	38 (16.3%)
(4) 表情などからの気持ちの受け止め	12 (5.2%)	183 (78.5%)	38 (16.3%)	10 (4.3%)	185 (79.4%)	38 (16.3%)
(5) 発声、喃語などへのゆったりと優しい応答	13 (5.6%)	185 (79.4%)	35 (15.0%)	11 (4.7%)	185 (79.4%)	37 (15.9%)
(6) 積極的な言葉のやりとり	13 (5.6%)	185 (79.4%)	35 (15.0%)	10 (4.3%)	187 (80.3%)	36 (15.5%)
(7) 一緒にいることを喜ぶような声かけ	15 (6.4%)	181 (77.7%)	37 (15.9%)	10 (4.3%)	184 (79.0%)	39 (16.7%)
(8) 一人一人への優しい対応	12 (5.2%)	184 (79.0%)	37 (15.9%)	6 (2.6%)	187 (80.3%)	40 (17.2%)
(9) 親しみの気持ちを表せる工夫	21 (9.0%)	179 (76.8%)	33 (14.2%)	19 (8.2%)	181 (77.7%)	33 (14.2%)
(10) 気持ちを理解した受け止め	13 (5.6%)	182 (78.1%)	38 (16.3%)	6 (2.6%)	188 (80.7%)	39 (16.7%)

表24　0歳児担当者の精神的発達に関する視点についての指導計画の立案力（n=233）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 興味や関心をもてるような環境との関わり	18 (7.7%)	188 (80.7%)	27 (11.6%)	15 (6.4%)	189 (81.1%)	29 (12.4%)
(2) 音、形、色、手触りなどを考慮した玩具での遊び	20 (8.6%)	182 (78.1%)	31 (13.3%)	15 (6.4%)	185 (79.4%)	33 (14.2%)
(3) 感覚の発達を促すような玩具での遊び	18 (7.7%)	184 (79.0%)	31 (13.3%)	14 (6.0%)	187 (80.3%)	32 (13.7%)
(4) 探索意欲を促す活動	22 (9.4%)	182 (78.1%)	29 (12.4%)	21 (9.0%)	183 (78.5%)	29 (12.4%)
(5) 表現しようとする意欲の受け止め	22 (9.4%)	179 (76.8%)	32 (13.7%)	18 (7.7%)	187 (80.3%)	28 (12.0%)
(6) 発達に即した絵本での遊び	18 (7.7%)	182 (78.1%)	33 (14.2%)	16 (6.9%)	182 (78.1%)	35 (15.0%)
(7) 様々な色彩や形のものを見る機会	28 (12.0%)	177 (76.0%)	28 (12.0%)	24 (10.3%)	180 (77.3%)	29 (12.4%)
(8) あやし遊び	26 (11.2%)	172 (73.8%)	35 (15.0%)	24 (10.3%)	172 (73.8%)	37 (15.9%)
(9) リズムを伴った触れ合い遊び	17 (7.3%)	180 (77.3%)	36 (15.5%)	16 (6.9%)	177 (76.0%)	40 (17.2%)
(10) 十分に安全点検がなされた身の回りのものでの遊び	22 (9.4%)	180 (77.3%)	31 (13.3%)	18 (7.7%)	184 (79.0%)	31 (13.3%)

３－３．１歳児担当保育者対象の調査の結果について

（１）回答者（１歳児担当保育者）について

１歳児担当保育者用アンケートに回答のあった者は、全部で263人であった。これまでの保育経験について尋ねたところ、保育所または認定こども園への勤務年数については、１年未満が６人（2.3%）、１年～５年未満が60人（22.8%）、５年～10年未満が78人（29.7%）、10年～15年未満が46人（17.5%）、15年～20年未満が23人（8.7%）、20年以上が45人（17.1%）であった。１歳児担当者としての経験年数については、１年未満が47人（17.9%）、１年～５年未満が159人（60.5%）、５年～10年未満が43人（16.3%）、10年～15年未満が５人（1.9%）、15年～20年未満が２人（0.8%）、20年以上が１人（0.4%）であった。保育士資格の取得方法を尋ねたところ、245人（93.2%）が大学等の養成施設で取得したと回答しており、保育士試験で資格取得した者はわずかに16人（6.1%）あった。また、勤務形態を尋ねたところ、正規職員が194人（73.8%）、非常勤職員が65人（24.7%）、派遣職員が３人（1.1%）であった。

（２）１歳児担当保育者の14の内容別の研修の受講状況

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、園外研修と園内研修で、それぞれの内容の研修をどの程度受けたかどうかを尋ねた結果を表25にまとめた。14の内容により

表25　1歳児担当者の14項目の研修項目の受講状況（n=263）

	園外研修			園内研修		
	受けていない	１回受けた	複数回受けた	受けていない	１回受けた	複数回受けた
(1) 乳児保育の役割と機能	126 (47.9%)	86 (32.7%)	51 (19.4%)	162 (61.6%)	60 (22.8%)	41 (15.6%)
(2) 乳児保育の現状と課題	144 (54.8%)	75 (28.5%)	44 (16.7%)	160 (60.8%)	65 (24.7%)	38 (14.4%)
(3) 乳児保育における安全な環境	131 (49.8%)	89 (33.8%)	43 (16.3%)	143 (54.4%)	72 (27.4%)	48 (18.3%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	128 (48.7%)	88 (33.5%)	47 (17.9%)	142 (54.0%)	72 (27.4%)	49 (18.6%)
(5) 他職種との協働	171 (65.0%)	64 (24.3%)	28 (10.6%)	182 (69.2%)	50 (19.0%)	31 (11.8%)
(6) 乳児保育における配慮事項	135 (51.3%)	83 (31.6%)	45 (17.1%)	145 (55.1%)	70 (26.6%)	48 (18.3%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	126 (47.9%)	87 (33.1%)	50 (19.0%)	142 (54.0%)	75 (28.5%)	46 (17.5%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	129 (49.0%)	85 (32.3%)	49 (18.6%)	145 (55.1%)	68 (25.9%)	50 (19.0%)
(9) 保育所保育指針について	133 (50.6%)	88 (33.5%)	42 (16.0%)	147 (55.9%)	78 (29.7%)	38 (14.4%)
(10) 乳児の発達と保育内容	124 (47.1%)	86 (32.7%)	53 (20.2%)	153 (58.2%)	60 (22.8%)	50 (19.0%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	138 (52.5%)	79 (30.0%)	46 (17.5%)	159 (60.5%)	62 (23.6%)	42 (16.0%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	159 (60.5%)	72 (27.4%)	32 (12.2%)	159 (60.5%)	74 (28.1%)	30 (11.4%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	168 (63.9%)	66 (25.1%)	29 (11.0%)	161 (61.2%)	64 (24.3%)	38 (14.4%)
(14) 評価の理解及び取組	172 (65.4%)	61 (23.2%)	30 (11.4%)	173 (65.8%)	57 (21.7%)	33 (12.5%)

研修の受講の状況はやや異なっており、「他職種との協働」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などの内容についての研修は、６割を超える者が受講していないという結果であった。園内研修については、園外研修よりも「受けていない」という回答が多かったのに対し、「複数回受けた」という回答者の割合は園外研修とほぼ同程度であり、園内研修については実施している園と実施していない園で差がみられることが示された。

同じ14項目の内容について、今後の研修受講希望を尋ねた結果を表26にまとめた。いずれの項目も、「園外研修を受けたい」という回答が多かった。一方で、０歳児担当者と同様に、「園内研修を受けたい」「園外・園内研修を受けたい」という回答は管理職と比べると多かった。

（３）１歳児担当保育者の14の内容別の説明力

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目をクラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できるかを尋ね、「できない」「教えてもら

表26　1歳児担当者の14項目の研修受講希望（n=263）

	受けたいと思わない	園外研修を受けたい	園内研修を受けたい	園外研修・園内研修を受けたい
(1) 乳児保育の役割と機能	35 (13.3%)	123 (46.8%)	48 (18.3%)	57 (21.7%)
(2) 乳児保育の現状と課題	31 (11.8%)	131 (49.8%)	44 (16.7%)	57 (21.7%)
(3) 乳児保育における安全な環境	22 (8.4%)	117 (44.5%)	64 (24.3%)	60 (22.8%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	16 (6.1%)	130 (49.4%)	54 (20.5%)	63 (24.0%)
(5) 他職種との協働	44 (16.7%)	122 (46.4%)	48 (18.3%)	49 (18.6%)
(6) 乳児保育における配慮事項	27 (10.3%)	125 (47.5%)	56 (21.3%)	55 (20.9%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	24 (9.1%)	122 (46.4%)	56 (21.3%)	61 (23.2%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	24 (9.1%)	128 (48.7%)	55 (20.9%)	56 (21.3%)
(9) 保育所保育指針について	36 (13.7%)	127 (48.3%)	53 (20.2%)	47 (17.9%)
(10) 乳児の発達と保育内容	30 (11.4%)	126 (47.9%)	51 (19.4%)	56 (21.3%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	24 (9.1%)	132 (50.2%)	52 (19.8%)	55 (20.9%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	36 (13.7%)	117 (44.5%)	59 (22.4%)	51 (19.4%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	38 (14.4%)	121 (46.0%)	53 (20.2%)	51 (19.4%)
(14) 評価の理解及び取組	35 (13.3%)	119 (45.2%)	57 (21.7%)	52 (19.8%)

ってできる」「自分の力でできる」「他の保育者を指導できる」「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」の５つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表27に示した。

全体的に俯瞰すると、いずれの項目も「教えてもらってできる」という回答と「自分の力でできる」という回答が多かった。「他の保育者を指導できる」や「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」という回答は少なかった。14の項目による違いをみると、「他職種との協働」「保育所保育指針について」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などは、「できない」という回答が多かった。前述の研修の受講状況と比較すると、「研修を受けていない」という回答の多かった項目と一致する傾向がみられた。

表27　1歳児担当者の14項目の説明力（n=263）

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	園全体をリードできる
(1) 乳児保育の役割と機能	20 (7.6%)	130 (49.4%)	91 (34.6%)	20 (7.6%)	2 (0.8%)
(2) 乳児保育の現状と課題	24 (9.1%)	131 (49.8%)	93 (35.4%)	13 (4.9%)	2 (0.8%)
(3) 乳児保育における安全な環境	14 (5.3%)	103 (39.2%)	118 (44.9%)	24 (9.1%)	4 (1.5%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	13 (4.9%)	112 (42.6%)	115 (43.7%)	20 (7.6%)	3 (1.1%)
(5) 他職種との協働	46 (17.5%)	146 (55.5%)	58 (22.1%)	10 (3.8%)	3 (1.1%)
(6) 乳児保育における配慮事項	14 (5.3%)	112 (42.6%)	114 (43.3%)	20 (7.6%)	3 (1.1%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	14 (5.3%)	97 (36.9%)	125 (47.5%)	24 (9.1%)	3 (1.1%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	14 (5.3%)	102 (38.8%)	120 (45.6%)	23 (8.7%)	4 (1.5%)
(9) 保育所保育指針について	36 (13.7%)	135 (51.3%)	85 (32.3%)	5 (1.9%)	2 (0.8%)
(10) 乳児の発達と保育内容	18 (6.8%)	116 (44.1%)	108 (41.1%)	19 (7.2%)	2 (0.8%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	18 (6.8%)	125 (47.5%)	98 (37.3%)	19 (7.2%)	3 (1.1%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	27 (10.3%)	130 (49.4%)	87 (33.1%)	17 (6.5%)	2 (0.8%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	27 (10.3%)	122 (46.4%)	101 (38.4%)	12 (4.6%)	1 (0.4%)
(14) 評価の理解及び取組	33 (12.5%)	130 (49.4%)	89 (33.8%)	10 (3.8%)	1 (0.4%)

（4）１歳児担当保育者の５領域の指導計画立案力

５領域毎の保育の内容に沿った指導計画をどの程度作成することができるか、各領域について10ずつの項目を設定して、それぞれ「立てられない」「自分の力で立てられる」「他の保育者を指導できる」の３つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表28、表29、表30、表31、表32に示した。

いずれの項目も、多くの保育者（70～80％程度）が「自分の力で立てられる」と回答していた。「他の保育者を指導できる」という回答も、項目によって違いはあるがおおむね10％程度の者が回答していた。一方で、もっとも「立てられない」という回答が多かったのは、環境領域のなかの「物の性質や仕組みに気付くこと」「地域の生活に対する興味や関心」「社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり」であった。

表28　1歳児担当者の健康領域についての指導計画の立案力（n=263）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 安定感をもって生活すること	23 (8.7%)	210 (79.8%)	30 (11.4%)	26 (9.9%)	207 (78.7%)	30 (11.4%)
(2) 生活リズムの形成	32 (12.2%)	201 (76.4%)	30 (11.4%)	36 (13.7%)	200 (76.0%)	27 (10.3%)
(3) 走る、飛ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	30 (11.4%)	204 (77.6%)	29 (11.0%)	30 (11.4%)	205 (77.9%)	28 (10.6%)
(4) 清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	23 (8.7%)	211 (80.2%)	29 (11.0%)	24 (9.1%)	211 (80.2%)	28 (10.6%)
(5) ゆったりとした排泄を促すこと	26 (9.9%)	205 (77.9%)	32 (12.2%)	28 (10.6%)	206 (78.3%)	29 (11.0%)
(6) 身体を動かそうとする意欲の育成	35 (13.3%)	193 (73.4%)	35 (13.3%)	34 (12.9%)	200 (76.2%)	29 (11.0%)
(7) 食べる喜びや楽しさを味わえること	20 (7.6%)	207 (78.7%)	36 (13.7%)	23 (8.7%)	207 (78.7%)	33 (12.5%)
(8) 個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせること	23 (8.7%)	201 (76.4%)	39 (14.8%)	24 (9.1%)	204 (77.6%)	35 (13.3%)
(9) 食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	17 (6.5%)	209 (79.5%)	37 (14.1%)	22 (8.4%)	205 (77.9%)	36 (13.7%)
(10) 基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	40 (15.2%)	193 (73.4%)	30 (11.4%)	35 (13.3%)	202 (76.8%)	26 (9.9%)

表29　1歳児担当者の人間関係領域についての指導計画の立案力（n=263）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	35 (13.3%)	203 (77.2%)	25 (9.5%)	31 (11.8%)	206 (78.3%)	26 (9.9%)
(2) 他の子どもとの多様な関わり	34 (12.9%)	199 (75.7%)	30 (11.4%)	35 (13.3%)	197 (74.9%)	31 (11.8%)
(3) 自ら決まりの大切さに気付くこと	43 (16.3%)	199 (75.7%)	21 (8.0%)	43 (16.3%)	200 (76.0%)	20 (7.6%)
(4) 他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめること	36 (13.7%)	201 (76.4%)	26 (9.9%)	36 (13.7%)	202 (76.8%)	25 (9.5%)
(5) 気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	25 (9.5%)	207 (78.7%)	31 (11.8%)	26 (9.9%)	206 (78.3%)	31 (11.8%)
(6) 思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	30 (11.4%)	204 (77.6%)	29 (11.0%)	31 (11.8%)	202 (76.8%)	30 (11.4%)
(7) 不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付くこと	43 (16.3%)	194 (73.8%)	26 (9.9%)	43 (16.3%)	192 (73.0%)	28 (10.6%)
(8) 様々な人がいることへの気付きを促すこと	40 (15.2%)	199 (75.7%)	24 (9.1%)	42 (16.0%)	196 (74.5%)	25 (9.5%)
(9) 自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	26 (9.9%)	208 (79.1%)	29 (11.0%)	30 (11.4%)	206 (78.3%)	27 (10.3%)
(10) 相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	31 (11.8%)	205 (77.9%)	27 (10.3%)	31 (11.8%)	207 (78.7%)	25 (9.5%)

表30　1歳児担当者の環境領域についての指導計画の立案力（n=263）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促すこと	26 (9.9%)	209 (79.5%)	28 (10.6%)	29 (11.0%)	204 (77.6%)	30 (11.4%)
(2) 玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむこと	20 (7.6%)	207 (78.7%)	36 (13.7%)	17 (6.5%)	213 (81.0%)	33 (12.5%)
(3) 物の性質や仕組みに気付くこと	56 (21.3%)	190 (72.2%)	17 (6.5%)	51 (19.4%)	192 (73.0%)	20 (7.6%)
(4) 自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	46 (17.5%)	197 (74.9%)	20 (7.6%)	45 (17.1%)	195 (74.1%)	23 (8.7%)
(5) 身近な生き物に気付き、親しみをもつこと	26 (9.9%)	211 (80.2%)	26 (9.9%)	27 (10.3%)	205 (77.9%)	31 (11.8%)
(6) 地域の生活に対する興味や関心	61 (23.2%)	182 (69.2%)	20 (7.6%)	62 (23.6%)	181 (68.8%)	20 (7.6%)
(7) 感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど子どもの発達に応じた適切な玩具で遊ぶこと	32 (12.2%)	201 (76.4%)	30 (11.4%)	31 (11.8%)	201 (76.4%)	31 (11.8%)
(8) 発見を楽しんだり、考えたりすること	27 (10.3%)	207 (78.7%)	29 (11.0%)	24 (9.1%)	209 (79.5%)	30 (11.4%)
(9) 生命の尊さに対する気付きを促す関わり	42 (16.0%)	200 (76.0%)	21 (8.0%)	43 (16.3%)	200 (76.0%)	20 (7.6%)
(10) 社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	65 (24.7%)	179 (68.1%)	19 (7.2%)	63 (24.0%)	179 (68.1%)	21 (8.0%)

表31　1歳児担当者の言葉領域についての指導計画の立案力（n=263）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	28 (10.6%)	206 (78.3%)	29 (11.0%)	23 (8.7%)	210 (79.8%)	30 (11.4%)
(2) 生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	24 (9.1%)	208 (79.1%)	31 (11.8%)	26 (9.9%)	206 (78.3%)	31 (11.8%)
(3) 心のこもった日常の挨拶	22 (8.4%)	205 (77.9%)	36 (13.7%)	24 (9.1%)	205 (77.9%)	34 (12.9%)
(4) 人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	33 (12.5%)	198 (75.3%)	32 (12.2%)	36 (13.7%)	199 (75.7%)	28 (10.6%)
(5) 言葉のやり取りを楽しめるような関わり	22 (8.4%)	207 (78.7%)	34 (12.9%)	22 (8.4%)	206 (78.3%)	35 (13.3%)
(6) 状況を説明する言葉などを補う援助	38 (14.4%)	199 (75.7%)	26 (9.9%)	37 (14.1%)	198 (75.3%)	28 (10.6%)
(7) 思いを察し、共感した受け止め	21 (8.0%)	211 (80.2%)	31 (11.8%)	24 (9.1%)	210 (79.8%)	29 (11.0%)
(8) 言葉の習得段階に応じた関わり	33 (12.5%)	203 (77.2%)	27 (10.3%)	34 (12.9%)	205 (77.9%)	24 (9.1%)
(9) 絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	18 (6.8%)	209 (79.5%)	36 (13.7%)	19 (7.2%)	213 (81.0%)	31 (11.8%)
(10) 言葉のやり取りができるような援助	26 (9.9%)	209 (79.5%)	28 (10.6%)	26 (9.9%)	210 (79.8%)	27 (10.3%)

表32　1歳児担当者の表現領域についての指導計画の立案力（n=263）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	16 (6.1%)	211 (80.2%)	36 (13.7%)	15 (5.7%)	212 (80.6%)	36 (13.7%)
(2) 自分なりにイメージを広げて表現すること	39 (14.8%)	200 (76.0%)	24 (9.1%)	33 (12.5%)	203 (77.2%)	27 (10.3%)
(3) 様々な素材に触れること	22 (8.4%)	208 (79.1%)	33 (12.5%)	22 (8.4%)	209 (79.5%)	32 (12.2%)
(4) 身体の動きを表現できること	31 (11.8%)	206 (78.3%)	26 (9.9%)	27 (10.3%)	210 (79.8%)	26 (9.9%)
(5) 様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできること	24 (9.1%)	211 (80.2%)	28 (10.6%)	25 (9.5%)	209 (79.5%)	29 (11.0%)
(6) イメージや感性を豊かにする経験ができること	43 (16.3%)	198 (75.3%)	22 (8.4%)	38 (14.4%)	202 (76.8%)	23 (8.7%)
(7) 試行錯誤しながら様々な表現を楽しむこと	48 (18.3%)	193 (73.4%)	22 (8.4%)	43 (16.3%)	200 (76.0%)	20 (7.6%)
(8) 自分の力でやり遂げる充実感に気づくこと	35 (13.3%)	202 (76.8%)	26 (9.9%)	31 (11.8%)	205 (77.9%)	27 (10.3%)
(9) 自信を持って表現できるような関わり	33 (12.5%)	208 (79.1%)	22 (8.4%)	32 (12.2%)	208 (79.1%)	23 (8.7%)
(10) 発見や心が動く経験	41 (15.6%)	198 (75.3%)	24 (9.1%)	41 (15.6%)	199 (75.7%)	23 (8.7%)

３－４．２歳児担当保育者対象の調査の結果について

（１）回答者（２歳児担当保育者）について

２歳児担当保育者用アンケートに回答のあった者は、全部で254人であった。これまでの保育経験について尋ねたところ、保育所または認定こども園への勤務年数については、１年未満が10人（3.9%）、１年～５年未満が56人（22.0%）、５年～10年未満が73人（28.7%）、10年～15年未満が44人（17.3%）、15年～20年未満が30人（11.8%）、20年以上が36人（14.2%）であった。２歳児担当者としての経験年数については、１年未満が48人（18.9%）、１年～５年未満が145人（57.1%）、５年～10年未満が50人（19.7%）、10年～15年未満が５人（2.0%）、15年～20年未満が０人（0.0%）、20年以上が１人（0.4%）であった。保育士資格の取得方法を尋ねたところ、240人（94.5%）が大学等の養成施設で取得したと回答しており、保育士試験で資格取得した者はわずかに10人（3.9%）あった。また、勤務形態を尋ねたところ、正規職員が191人（75.2%）、非常勤職員が61人（24.1%）、派遣職員が１人（0.4%）であった。

（２）２歳児担当保育者の14の内容別の研修の受講状況

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、園外研修と園内研修で、それぞれの内容の研修をどの程度受けたかどうかを尋ねた結果を表33にまとめた。14の内容により

表33　2歳児担当者の14項目の研修項目の受講状況（n=254）

	園外研修			園内研修		
	受けていない	１回受けた	複数回受けた	受けていない	１回受けた	複数回受けた
(1) 乳児保育の役割と機能	105 (41.3%)	89 (35.0%)	60 (23.6%)	133 (52.4%)	71 (28.0%)	50 (19.7%)
(2) 乳児保育の現状と課題	118 (46.5%)	85 (33.5%)	51 (20.1%)	135 (53.1%)	76 (29.9%)	43 (16.9%)
(3) 乳児保育における安全な環境	115 (45.3%)	80 (31.5%)	59 (23.2%)	122 (48.0%)	77 (30.3%)	55 (21.7%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	109 (42.9%)	87 (34.3%)	58 (22.8%)	124 (48.8%)	77 (30.3%)	53 (20.9%)
(5) 他職種との協働	163 (64.2%)	57 (22.4%)	34 (13.4%)	177 (69.7%)	42 (16.5%)	35 (13.8%)
(6) 乳児保育における配慮事項	109 (42.9%)	92 (36.2%)	53 (20.9%)	127 (50.0%)	73 (28.7%)	54 (21.3%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	105 (41.3%)	88 (34.6%)	61 (24.0%)	118 (46.5%)	76 (29.9%)	60 (23.6%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	114 (44.9%)	85 (33.5%)	55 (21.7%)	132 (52.0%)	72 (28.3%)	50 (19.7%)
(9) 保育所保育指針について	105 (41.3%)	87 (34.3%)	62 (24.4%)	132 (52.0%)	71 (28.0%)	51 (20.1%)
(10) 乳児の発達と保育内容	103 (40.6%)	87 (34.3%)	64 (25.2%)	135 (53.1%)	65 (25.6%)	54 (21.3%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	111 (43.7%)	84 (33.1%)	59 (23.2%)	132 (52.0%)	69 (27.2%)	53 (20.9%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	122 (48.0%)	84 (33.1%)	48 (18.9%)	139 (54.7%)	70 (27.6%)	45 (17.7%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	130 (51.2%)	78 (30.7%)	46 (18.1%)	140 (55.1%)	64 (25.2%)	50 (19.7%)
(14) 評価の理解及び取組	134 (52.8%)	77 (30.3%)	43 (16.9%)	147 (57.9%)	63 (24.8%)	44 (17.3%)

研修の受講の状況はやや異なっており、「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」などの内容についての研修は、半数を超える者が受講していないという結果であった。園内研修については、いずれの項目も「受けていない」という回答が園外研修よりもわずかに高かった。

同じ14項目の内容について、今後の研修受講希望を尋ねた結果を表34にまとめた。いずれの項目も、「園外研修を受けたい」という回答が多かった。一方で、「園内研修を受けたい」「園外・園内研修を受けたい」という回答も管理職と比べると多かった。

（３）２歳児担当保育者の14の内容別の説明力

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育に関して、内容別に14の項目を設定して、それぞれの項目をクラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できるかを尋ね、「できない」「教えてもらってできる」「自分の力でできる」「他の保育者を指

表34　2歳児担当者の14項目の研修受講希望（n=254）

	受けたいと思わない	園外研修を受けたい	園内研修を受けたい	園外研修・園内研修を受けたい
(1) 乳児保育の役割と機能	15 (5.9%)	138 (54.3%)	58 (22.8%)	43 (16.9%)
(2) 乳児保育の現状と課題	14 (5.5%)	141 (55.5%)	55 (21.7%)	44 (17.3%)
(3) 乳児保育における安全な環境	14 (5.5%)	143 (56.3%)	51 (20.1%)	46 (18.1%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	8 (3.1%)	147 (57.9%)	54 (21.3%)	45 (17.7%)
(5) 他職種との協働	28 (11.0%)	135 (53.1%)	48 (18.9%)	43 (16.9%)
(6) 乳児保育における配慮事項	13 (5.1%)	137 (53.9%)	58 (22.8%)	46 (18.1%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	7 (2.8%)	143 (56.3%)	59 (23.2%)	45 (17.7%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	9 (3.5%)	137 (53.9%)	60 (23.6%)	48 (18.9%)
(9) 保育所保育指針について	22 (8.7%)	134 (52.8%)	54 (21.3%)	44 (17.3%)
(10) 乳児の発達と保育内容	18 (7.1%)	144 (56.7%)	47 (18.5%)	45 (17.7%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	13 (5.1%)	148 (58.3%)	50 (19.7%)	43 (16.9%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	27 (10.6%)	130 (51.2%)	51 (20.1%)	46 (18.1%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	27 (10.6%)	133 (52.4%)	50 (19.7%)	44 (17.3%)
(14) 評価の理解及び取組	27 (10.6%)	133 (52.4%)	49 (19.3%)	45 (17.7%)

導できる」「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」の５つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表35に示した。

全体的に俯瞰すると、いずれの項目も「教えてもらってできる」という回答と「自分の力でできる」という回答が多かった。「他の保育者を指導できる」や「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」という回答は少なかった。14の項目により違いがみられ、「他職種との協働」「保育所保育指針について」などが、「できない」という回答が多かった。

（４）２歳児担当保育者の５領域の指導計画立案力

５領域毎の保育の内容に沿った指導計画をどの程度作成することができるか、各領域について10ずつの項目を設定して、それぞれ「立てられない」「自分の力で立てられる」「他の保育者を指導できる」

表35　2歳児担当者の14項目の説明力（n=254）

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	園全体をリードできる
(1) 乳児保育の役割と機能	15 (5.9%)	115 (45.3%)	102 (40.2%)	20 (7.9%)	2 (0.8%)
(2) 乳児保育の現状と課題	23 (9.1%)	121 (47.6%)	94 (37.0%)	14 (5.5%)	2 (0.8%)
(3) 乳児保育における安全な環境	12 (4.7%)	92 (36.2%)	119 (46.9%)	27 (10.6%)	4 (1.6%)
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	14 (5.5%)	96 (37.8%)	115 (45.3%)	27 (10.6%)	2 (0.8%)
(5) 他職種との協働	52 (20.5%)	127 (50.0%)	59 (23.2%)	14 (5.5%)	2 (0.8%)
(6) 乳児保育における配慮事項	14 (5.5%)	90 (35.4%)	117 (46.1%)	31 (12.2%)	2 (0.8%)
(7) 乳児保育における保育者の関わり	10 (3.9%)	80 (31.5%)	130 (51.2%)	31 (12.2%)	3 (1.2%)
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	11 (4.3%)	86 (33.9%)	122 (48.0%)	32 (12.6%)	3 (1.2%)
(9) 保育所保育指針について	32 (12.6%)	117 (46.1%)	92 (36.2%)	11 (4.3%)	2 (0.8%)
(10) 乳児の発達と保育内容	19 (7.5%)	92 (36.2%)	122 (48.0%)	17 (6.7%)	4 (1.6%)
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	19 (7.5%)	97 (38.2%)	117 (46.1%)	19 (7.5%)	2 (0.8%)
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	23 (9.1%)	105 (41.3%)	105 (41.3%)	19 (7.5%)	2 (0.8%)
(13) 観察を通しての記録及び評価	23 (9.1%)	105 (41.3%)	105 (41.3%)	20 (7.9%)	1 (0.4%)
(14) 評価の理解及び取組	29 (11.4%)	106 (41.3%)	100 (41.7%)	18 (7.1%)	1 (0.4%)

の３つの選択肢から回答を求めた。その結果を、表36、表37、表38、表39、表40に示した。

いずれの項目も、多くの保育者（おおむね80％程度）が「自分の力で立てられる」と回答していた。「他の保育者を指導できる」という回答も、項目によって違いはあるがおおむね10〜15％程度の者が回答していた。一方で、もっとも「立てられない」という回答が多かったのは、環境領域のなかの「地域の生活に対する興味や関心」「社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり」であった。

３－５．研修の受講と説明力の関係について

14の項目について、「研修を受けていない」という回答の多かった項目と、説明力として「できない」や「どちらかというとできない」という回答が多かった項目は、比較的一致している傾向がみられた。そこで、実際に、研修の受講状況と説明力との関連があるかどうか検討した。まず、比較をしやす

表36　2歳児担当者の健康領域についての指導計画の立案力（n=254）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 安定感をもって生活すること	19 (7.5%)	201 (79.1%)	34 (13.4%)	17 (6.7%)	203 (79.9%)	34 (13.4%)
(2) 生活リズムの形成	23 (9.1%)	197 (77.6%)	34 (13.4%)	19 (7.5%)	201 (79.1%)	34 (13.4%)
(3) 走る、飛ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	22 (8.7%)	201 (79.1%)	31 (12.2%)	23 (9.1%)	201 (79.1%)	30 (11.8%)
(4) 清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	19 (7.5%)	200 (78.7%)	35 (13.8%)	17 (6.7%)	201 (79.1%)	36 (14.2%)
(5) ゆったりとした排泄を促すこと	23 (9.1%)	195 (76.8%)	36 (14.2%)	23 (9.1%)	198 (78.0%)	33 (13.0%)
(6) 身体を動かそうとする意欲の育成	21 (8.3%)	198 (78.0%)	35 (13.8%)	19 (7.5%)	204 (80.3%)	31 (12.2%)
(7) 食べる喜びや楽しさを味わえること	19 (7.5%)	196 (77.2%)	39 (15.4%)	16 (6.3%)	204 (80.3%)	34 (13.4%)
(8) 個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせること	26 (10.2%)	184 (72.4%)	44 (17.3%)	19 (7.5%)	194 (76.4%)	41 (16.1%)
(9) 食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	16 (6.3%)	195 (76.8%)	43 (16.9%)	14 (5.5%)	200 (78.7%)	40 (15.7%)
(10) 基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	31 (12.2%)	185 (72.8%)	38 (15.0%)	27 (10.6%)	190 (74.8%)	37 (14.6%)

表37　2歳児担当者の人間関係領域についての指導計画の立案力（n=254）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	24 (9.4%)	199 (78.3%)	31 (12.2%)	19 (7.5%)	204 (80.3%)	31 (12.2%)
(2) 他の子どもとの多様な関わり	18 (7.1%)	206 (81.1%)	30 (11.8%)	18 (7.1%)	203 (79.9%)	33 (13.0%)
(3) 自ら決まりの大切さに気付くこと	28 (11.0%)	196 (77.2%)	30 (11.8%)	28 (11.0%)	198 (78.0%)	28 (11.0%)
(4) 他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめること	25 (9.8%)	203 (79.9%)	26 (10.2%)	27 (10.6%)	199 (78.3%)	28 (11.0%)
(5) 気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	20 (7.9%)	198 (78.0%)	36 (14.2%)	20 (7.9%)	199 (78.3%)	35 (13.8%)
(6) 思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	27 (10.6%)	193 (76.0%)	34 (13.4%)	25 (9.8%)	197 (77.6%)	32 (12.6%)
(7) 不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付くこと	33 (13.0%)	186 (73.2%)	35 (13.8%)	28 (11.0%)	192 (75.6%)	34 (13.4%)
(8) 様々な人がいることへの気付きを促すこと	30 (11.8%)	193 (76.0%)	31 (12.2%)	27 (10.6%)	196 (77.2%)	31 (12.2%)
(9) 自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	22 (8.7%)	196 (77.2%)	36 (14.2%)	20 (7.9%)	199 (78.3%)	35 (13.8%)
(10) 相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	23 (9.1%)	196 (77.2%)	35 (13.8%)	23 (9.1%)	196 (77.2%)	35 (13.8%)

表38　2歳児担当者の環境領域についての指導計画の立案力（n=254）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促すこと	22 (8.7%)	205 (80.7%)	27 (10.6%)	21 (8.3%)	205 (80.7%)	28 (11.0%)
(2) 玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむこと	17 (6.7%)	208 (81.9%)	29 (11.4%)	20 (7.9%)	202 (79.5%)	32 (12.6%)
(3) 物の性質や仕組みに気付くこと	35 (13.8%)	199 (78.3%)	20 (7.9%)	39 (15.4%)	191 (75.2%)	24 (9.4%)
(4) 自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	35 (13.8%)	191 (75.2%)	28 (11.0%)	32 (12.6%)	194 (76.4%)	28 (11.0%)
(5) 身近な生き物に気付き、親しみをもつこと	20 (7.9%)	202 (79.5%)	32 (12.6%)	19 (7.5%)	203 (79.9%)	32 (12.6%)
(6) 地域の生活に対する興味や関心	44 (17.3%)	188 (74.0%)	22 (8.7%)	43 (16.9%)	189 (74.4%)	22 (8.7%)
(7) 感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど子どもの発達に応じた適切な玩具で遊ぶこと	31 (12.2%)	194 (76.4%)	29 (11.4%)	27 (10.6%)	195 (76.8%)	32 (12.6%)
(8) 発見を楽しんだり、考えたりすること	18 (7.1%)	205 (80.7%)	31 (12.2%)	20 (7.9%)	198 (78.0%)	36 (14.2%)
(9) 生命の尊さに対する気付きを促す関わり	31 (12.2%)	191 (75.2%)	32 (12.6%)	29 (11.4%)	191 (75.2%)	34 (13.4%)
(10) 社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	56 (22.0%)	175 (68.2%)	23 (9.1%)	56 (22.0%)	174 (68.5%)	24 (9.4%)

表39　2歳児担当者の言葉領域についての指導計画の立案力（n=254）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	25 (9.8%)	197 (77.6%)	32 (12.6%)	24 (9.4%)	197 (77.6%)	33 (13.0%)
(2) 生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	24 (9.4%)	192 (75.6%)	38 (15.0%)	22 (8.7%)	194 (76.4%)	38 (15.0%)
(3) 心のこもった日常の挨拶	18 (7.1%)	192 (75.6%)	44 (17.3%)	17 (6.7%)	196 (77.2%)	41 (16.1%)
(4) 人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	25 (9.8%)	193 (76.0%)	36 (14.2%)	23 (9.1%)	195 (76.8%)	36 (14.2%)
(5) 言葉のやり取りを楽しめるような関わり	16 (6.3%)	199 (78.3%)	39 (15.4%)	18 (7.1%)	198 (78.0%)	38 (15.0%)
(6) 状況を説明する言葉などを補う援助	31 (12.2%)	191 (75.2%)	32 (12.6%)	29 (11.4%)	193 (76.0%)	32 (12.6%)
(7) 思いを察し、共感した受け止め	20 (7.9%)	193 (76.0%)	41 (16.1%)	19 (7.5%)	194 (76.4%)	41 (16.1%)
(8) 言葉の習得段階に応じた関わり	29 (11.4%)	194 (76.4%)	31 (12.2%)	25 (9.8%)	197 (77.6%)	32 (12.6%)
(9) 絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	16 (6.3%)	200 (78.7%)	38 (15.0%)	17 (6.7%)	200 (78.7%)	37 (14.6%)
(10) 言葉のやり取りができるような援助	18 (7.1%)	199 (78.3%)	37 (14.6%)	21 (8.3%)	195 (76.8%)	38 (15.0%)

表40　2歳児担当者の表現領域についての指導計画の立案力（n=254）

	ねらい・内容			援助・環境構成		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	14 (5.5%)	206 (81.1%)	34 (13.4%)	14 (5.5%)	207 (81.5%)	33 (13.0%)
(2) 自分なりにイメージを広げて表現すること	29 (11.4%)	197 (77.6%)	28 (11.0%)	27 (10.6%)	201 (79.1%)	26 (10.2%)
(3) 様々な素材に触れること	19 (7.5%)	201 (79.1%)	34 (13.4%)	16 (6.3%)	202 (79.5%)	36 (14.2%)
(4) 身体の動きを表現できること	24 (9.4%)	201 (79.1%)	29 (11.4%)	21 (8.3%)	205 (80.7%)	28 (11.0%)
(5) 様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできること	22 (8.7%)	199 (78.3%)	33 (13.0%)	22 (8.7%)	200 (78.7%)	32 (12.6%)
(6) イメージや感性を豊かにする経験ができること	30 (11.8%)	193 (76.0%)	31 (12.2%)	34 (13.4%)	192 (75.6%)	28 (11.0%)
(7) 試行錯誤しながら様々な表現を楽しむこと	36 (14.2%)	186 (73.2%)	32 (12.6%)	37 (14.6%)	184 (72.4%)	33 (13.0%)
(8) 自分の力でやり遂げる充実感に気づくこと	28 (11.0%)	193 (76.0%)	33 (13.0%)	29 (11.4%)	192 (75.6%)	33 (13.0%)
(9) 自信を持って表現できるような関わり	31 (12.2%)	192 (75.6%)	31 (12.2%)	29 (11.4%)	194 (76.4%)	31 (12.2%)
(10) 発見や心が動く経験	32 (12.6%)	191 (75.2%)	31 (12.2%)	30 (11.8%)	192 (75.6%)	32 (12.6%)

いように説明力得点を算出した。管理職用アンケートでは、14の項目の説明力は「できない」「どちらかというとできない」「どちらかというとできる」「できる」という４段階で回答を求めているので、「できない」を０点、「どちらかというとできない」を１点、「どちらかというとできる」を２点、「できる」を３点という形で数値化し、３点満点の説明力得点とした。０歳児担当者、１歳児担当者、２歳児担当者用のアンケートでは、「できない」「教えてもらってできる」「自分の力でできる」「他の保育者を指導できる」「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」の５つの選択肢から回答を求めているため、「できない」を０点、「教えてもらってできる」を１点、「自分の力でできる」を２点、「他の保育者を指導できる」を３点、「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」を４点という形で数値化し、４点満点の説明力得点とした。いずれの調査対象者も、研修を受けていない人、研修を１回受けた人、研修を複数回受けた人という３群に分け、群ごとに説明力得点の平均値を求め、群間で平均値に統計的有意差があるかを確認するため一元配置分散分析をし、５%水準で有意であった項目にはＦ値も表に付記した。

管理職についての結果を、園外研修については表41に、園内研修については表42にまとめた。項目によって違いはあるが、研修の受講状況によって説明力得点に差があることが示された。園外研修の場合も園内研修の場合も、「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」については、研修を受けていない者より研修を受けている者、１回受けている者より複数回受けている者の説明力得点が高いことが示された。園内研修については、さらに、「乳児保育の現状と課題」や「保育所保育指針について」が研修を受けていない者より研修を受けている者のほうが説明力得点が高いことが示された。

０歳児担当者についての結果を、園外研修については表43に、園内研修については表44にまとめた。いずれの項目においても、研修の受講状況によって説明力得点に差があり、研修を受けていない者より研修を受けている者、１回受けている者より複数回受けている者の説明力得点が高いことが示された。

１歳児担当者についての結果を、園外研修については表45に、園内研修については表46にまとめた。いずれの項目においても、研修の受講状況によって説明力得点に差があり、研修を受けていない者より研修を受けている者、１回受けている者より複数回受けている者の説明力得点が高いことが示された。

２歳児担当者についての結果を、園外研修については表47に、園内研修については表48にまとめた。いずれの項目においても、研修の受講状況によって説明力得点に差があり、研修を受けていない者より研修を受けている者、１回受けている者より複数回受けている者の説明力得点が高いことが示された。

Ⅳ．考察

（１）乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育の状況について

乳児の定員枠をもっていない施設や実質的に在籍児がいない施設はわずかにみられるものの、ほとん

表41　管理職の14項目の園外研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	2.79	2.91	2.94	
(2) 乳児保育の現状と課題	2.74	2.78	2.85	
(3) 乳児保育における安全な環境	2.88	2.94	2.94	
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	2.88	2.94	2.94	
(5) 他職種との協働	2.33	2.69	2.75	F=5.31, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	2.94	2.93	2.97	
(7) 乳児保育における保育者の関わり	2.96	2.91	2.97	
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	2.83	2.86	2.97	
(9) 保育所保育指針について	2.71	2.68	2.74	
(10) 乳児の発達と保育内容	2.83	2.87	2.94	
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	2.84	2.90	2.97	
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	2.64	2.74	2.90	
(13) 観察を通しての記録及び評価	2.54	2.58	2.95	F=4.99, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	2.49	2.58	2.89	F=3.51, p<.05

表42　管理職の14項目の園内研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	2.82	2.90	3.00	
(2) 乳児保育の現状と課題	2.67	2.80	2.96	F=3.60, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	2.90	2.91	2.97	
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	2.88	2.86	3.00	
(5) 他職種との協働	2.29	2.73	2.85	F=9.73, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	2.91	2.93	3.00	
(7) 乳児保育における保育者の関わり	2.94	2.90	3.00	
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	2.81	2.85	3.00	
(9) 保育所保育指針について	2.53	2.81	2.85	F=5.06, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	2.78	2.89	3.00	
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	2.86	2.87	3.00	
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	2.68	2.67	2.91	
(13) 観察を通しての記録及び評価	2.46	2.68	2.88	F=5.06, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	2.46	2.70	2.80	F=3.75, p<.01

表43　0歳児担当者の14項目の園外研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.21	1.65	2.02	F=21.84, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.10	1.63	1.93	F=28.41, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.47	1.88	2.22	F=16.49, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.43	1.71	2.11	F=13.46, p<.01
(5) 他職種との協働	1.02	1.33	2.05	F=16.90, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.46	1.77	2.14	F=14.89, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.50	1.80	2.16	F=14.01, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.54	1.79	2.19	F=13.76, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.00	1.46	1.80	F=23.57, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.29	1.77	2.08	F=21.04, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.29	1.61	2.10	F=16.14, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.27	1.63	2.09	F=15.81, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.23	1.70	2.00	F=18.07, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.16	1.56	2.11	F=21.41, p<.01

表44　0歳児担当者の14項目の園内研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.45	1.47	1.88	F=6.03, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.30	1.49	1.79	F=8.09, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.61	1.88	2.00	F=5.86, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.56	1.64	1.96	F=5.06, p<.01
(5) 他職種との協働	1.08	1.48	1.42	F=5.53, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.57	1.63	2.08	F=9.46, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.68	1.73	1.98	F=3.27, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.65	1.75	2.04	F=5.55, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.22	1.37	1.65	F=5.62, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.52	1.65	1.98	F=6.44, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.41	1.63	1.88	F=6.42, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.43	1.41	1.90	F=5.44, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.39	1.44	1.85	F=5.21, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.29	1.42	1.77	F=5.30, p<.01

表45　1歳児担当者の14項目の園外研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.25	1.48	1.88	F=13.57, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.18	1.53	1.80	F=14.73, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.40	1.66	2.21	F=19.58, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.41	1.58	2.02	F=12.50, p<.01
(5) 他職種との協働	0.94	1.50	1.68	F=21.21, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.36	1.59	2.13	F=20.02, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.40	1.69	2.16	F=20.63, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.43	1.60	2.16	F=17.50, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.08	1.35	1.57	F=9.07, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.30	1.53	1.96	F=15.80, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.29	1.49	2.04	F=18.46, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.21	1.50	1.97	F=15.10, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.24	1.48	1.97	F=13.51, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.19	1.38	1.80	F=9.57, p<.01

表46　1歳児担当者の14項目の園内研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.30	1.55	1.88	F=10.70, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.23	1.58	1.68	F=9.18, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.42	1.75	2.04	F=13.77, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.39	1.68	1.94	F=11.36, p<.01
(5) 他職種との協働	1.02	1.50	1.42	F=9.86, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.38	1.66	2.00	F=14.04, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.42	1.81	2.04	F=15.94, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.43	1.74	2.02	F=12.38, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.08	1.42	1.53	F=9.15, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.34	1.70	1.80	F=9.96, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.35	1.55	1.90	F=9.49, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.19	1.59	1.83	F=13.28, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.24	1.61	1.61	F=7.87, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.18	1.51	1.55	F=6.26, p<.01

表47　2歳児担当者の14項目の園外研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.32	1.53	2.12	F=34.28, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.27	1.48	2.08	F=36.39, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.46	1.70	2.29	F=33.12, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.41	1.71	2.17	F=27.92, p<.01
(5) 他職種との協働	1.18	1.46	2.12	F=43.43, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.45	1.76	2.25	F=28.10, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.55	1.75	2.26	F=24.15, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.48	1.80	2.31	F=31.41, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.19	1.48	1.94	F=35.91, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.45	1.59	2.11	F=23.45, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.41	1.57	2.15	F=31.74, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.40	1.61	2.02	F=16.92, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.39	1.58	2.13	F=26.04, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.35	1.58	2.09	F=26.14, p<.01

表48　2歳児担当者の14項目の園内研修状況別の説明力得点の平均

	未受講	１回	複数回	検定結果
(1) 乳児保育の役割と機能	1.42	1.54	2.08	F=20.54, p<.01
(2) 乳児保育の現状と課題	1.34	1.54	1.95	F=17.05, p<.01
(3) 乳児保育における安全な環境	1.54	1.74	2.13	F=14.21, p<.01
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	1.52	1.73	2.02	F=10.44, p<.01
(5) 他職種との協働	1.19	1.57	2.00	F=34.21, p<.01
(6) 乳児保育における配慮事項	1.54	1.75	2.13	F=14.78, p<.01
(7) 乳児保育における保育者の関わり	1.63	1.76	2.15	F=12.39, p<.01
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	1.55	1.85	2.22	F=19.04, p<.01
(9) 保育所保育指針について	1.29	1.54	1.86	F=18.57, p<.01
(10) 乳児の発達と保育内容	1.50	1.66	2.06	F=14.29, p<.01
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	1.47	1.67	2.00	F=13.72, p<.01
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	1.44	1.69	1.89	F=9.48, p<.01
(13) 観察を通しての記録及び評価	1.42	1.59	2.02	F=17.53, p<.01
(14) 評価の理解及び取組	1.37	1.67	1.95	F=17.13, p<.01

どの保育所、幼保連携型認定こども園では乳児保育を実施していた。また、１歳以上３歳未満児については、すべての保育所、幼保連携型認定こども園が定員枠をもって実施していることが示された。ただ、定員枠については、０歳児は11～15人程度、１歳児と２歳児は16～20人程度の園がもっとも多かったが、施設による違いが大きく、さまざまな規模の施設があることが示された。各年齢児を担当する保育者数は、０歳児は担当保育者数が2人という施設がもっとも多く、１歳児は担当保育者数が３人、２歳児は担当保育者数が４人という施設がもっとも多かった。乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたっては、３歳以上児の保育とは異なり定員が少ないことから、今回の調査では明らかにしていないが、どのようにクラスを構成して運営しているかは施設によって大きく異なる可能性がある。たとえば、年齢の異なる乳児・幼児を一緒に保育するという施設もあるだろうが、そういうことになれば、保育者の負担や求められる能力なども変わってくるだろう。このように、運営の仕方によって実質的な保育の状況やそこで生じる課題も大きく異なる可能性があり、今後はそうした詳細な分析も必要となるであろう。

平成30年の保育所保育指針等の改定で、乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育の内容が詳細に記述され、乳児に関しては３つの視点にそって、１歳から3歳未満の幼児に関しては５領域毎に、ねらい及び内容などが明記された。個々の施設においては、保育所保育指針等の改定に合わせて、各施設の保育の理念、保育の方針、保育の目標、保育の計画などは見直しをし、必要に応じて修正されることが望まれる。実際、多くの施設では見直しが行われ、とくに保育の計画や記録の書式などは必要に応じて修正していることが示された。一方で見直しが行われなかったという施設も存在しており、とくに保育の理念、保育の方針、保育の目標については、見直しをしなかったという施設が４分の１程度と少なくなかった。実際に修正をするかどうかは別として、保育所保育指針等の改定に合わせて、見直しが行われることが望まれる。

保育所保育指針の「保育の計画及び評価」における保育の内容の評価ついて今回調査したところ、わずかの施設を除き、大部分の施設では、保育内容の評価が行われていることが明らかになった。園長や主任保育士・主幹教諭などの管理職を中心に複数のもので評価をおこなっているところが多く、評価の方法も指導計画など書類から評価しているというところはもちろん、実際に保育に参加しながら評価しているところも多くみられた。

（2）乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施している保育者の資質や能力について

今回の調査にあたって、乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたり、理解しておくべき事項として14項目をかかげ、それらについて保護者などに説明することができるかどうかという点から保育者の資質や能力を捉えようとした。

実際にこれらの14項目の説明力について、乳児や１歳以上３歳未満児の保育担当者を調査すると、いずれの項目も「教えてもらってできる」という回答と「自分の力でできる」という回答が多かった。その意味では、現状の乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育の担当者にはある程度の資質や能力があると

評価できる。一方で、「他の保育者を指導できる」や「保育者の集団や組織、園全体をリードできる」という回答は少なかった。改定された保育所保育指針等でも、保育者のキャリアパスを見据えた研修体系が求められているが、リーダー的な資質や能力の育成は課題といえる。

新しい保育所保育指針に示された乳児保育の３つの視点と１歳以上３歳未満児の５領域に沿った指導計画を立案できるかどうかという点からも同じようなことがいえる。０歳児、１歳児、２歳児担当保育者のいずれも多くの保育者が、今回提示した項目のいずれにおいてもその内容を含む指導計画を「自分の力で立てられる」と回答していた。「他の保育者を指導できる」という回答もいくらかはみられたが、決して多くはなかった。その意味では、やはりリーダー的な資質や能力の育成が課題といえる。

乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育にあたり理解しておくべき14項目について詳細に比較をすると、14項目のうち、とくに「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」については、できないという回答が比較的多かった。これらの項目は、乳児保育においてのみではなく、すべての保育者において求められる資質や能力ともいえるが、今後、高めていくべき資質・能力といえるだろう。

今回の研究では、便宜的に、保護者などに説明できるという観点から、保育者の資質や能力を捉えようとしたが、確かに他者に説明できることはきちんと理解できている力といえるかもしれないが、実際には説明できることと、実際に実践できることは別のことである。そういう意味では、真の意味での保育者の資質・能力を調べることができたかどうかはわからない。そうした点からは、別の視点から資質や能力を検討することも必要かもしれない。

（３）乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施している保育者が受けた研修の内容と方法

乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたり、理解しておくべき14項目の研修状況を考察すると、必ずしも十分な研修がなされているとはいえないものであった。とくに０歳児、１歳児、２歳児の担当者においては、園外研修・園内研修いずれをみても、半数近いもの（項目によっては半数を超えるもの）が受講していないという回答をしていた。その意味では、まずは研修の機会を全体的に増大させる必要があるであろう。

14項目のなかでも、とくに「他職種との協働」「観察を通しての記録及び評価」「評価の理解及び取組」については、管理職も、どの年齢担当の保育者も、園外研修・園内研修ともに受講していないという回答が多かった。これらの項目は、前節で記述したとおり、保護者などへの質問も比較的できないという回答が多い項目でもあり、研修の少なさが資質・能力の低さにつながっている可能性が考えられる。今後は、とくにこの領域での研修の機会が増えることが望まれる。

本研究の結果、研修を受けていない者、１回研修を受けた者、複数回研修を受けた者という３群にわけて、乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたり理解しておくべき14項目の説明力を比較したところ、研修を受けていない者よりも研修を受けた者、１回研修を受けた者より複数回研修を受けた者の方が、説明力が高いことが示され、研修が有効に作用していることが確認された。こうした点もふまえ、今後、乳児保育や１歳以上３歳未満児の保育のための研修の機会が増えることが求められる。

研修の形態に対する希望として、管理職の調査では、園外研修を受けたいという回答が多かったのに対し、０歳児、１歳児、２歳児を担当する保育者を対象とした調査では、園外研修を受けたいという回答がもっとも多いという点では管理職と同じであるが、その一方で、園内研修を受けたいというニーズも管理職と比べると多いことが示された。保育所等において保育者等職員は多忙であり、研修などのために出張することもなかなか困難であろう。今回の調査では他の保育者や園全体をリードできる保育者が多くないという結果となり、リーダー的資質の養成が課題であることを前節でも述べているが、各園にリーダーやミドルリーダー的資質を備えた保育者が十分に存在するようになることで、充実した園内研修の機会が増えることが望まれる。

今回調査でとりあげた乳児保育と１歳以上３歳未満児の保育を実施するにあたり理解しておくべき14項目は、方法においても述べたとおり、厚生労働省が示した「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」の分野別リーダー研修の内容において、乳児保育分野の具体的な研修内容（例）として示されている項目であった。今回の調査では、あくまで、この内容を参考に調査票を作成しただけであり、保育士等キャリアアップ研修の受講状況を尋ねたものではない。そのため確かなことはなんとも言えないが、今回の結果は、保育士等キャリアアップ研修の受講状況を彷彿とさせる。厚生労働省の資料によれば、処遇改善等加算Ⅱによる賃金改善対象者の研修

受講状況（令和２年度末時点）において、職務別分野リーダーや若手リーダーでは約半数のものが、副主任保育士、中核リーダーに至っては約4分の3のものが、研修要件を満たしていないという報告もある。コロナで研修が困難であったという状況も考えられるが、保育士等キャリアアップ研修も含め、あらためて研修の在り方を検討する必要性があるかもしれない。

【引用文献】

雒氷ゆかり・清水益治・千葉武夫・森俊之・西村重稀・成田朋子・水上彰子・青井夕貴・吉岡眞知子・波田埜英治・中島一（2020） 乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育に関する研究 保育科学研究 10, 1–28.

漁田俊子・山田悟史・酒井範子・宮地由紀子・那須恵子・漁田武雄・久保田貴之・日隈美代子（2018） ３歳未満児の発達と保育：保育現場における現状と課題 静岡産業大学論集：環境と経営 24(2), 27–36.

漁田俊子・山田悟史・宮地由紀子・入江眞理・佐藤寛子・酒井範子・漁田武雄・久保田貴之（2020）乳幼児の発達と保育：保育現場における課題とその解決策 静岡産業大学論集：スポーツと人間 4(1), 25–32.

永井久美子・香曽我部琢・渡辺俊太郎（2020） 同僚性に困難を抱えやすい乳児保育担当者のキャリア形成とバーンアウト KAKEN科学研究費助成事業研究課題

遠藤純子・小野友紀（2021） 乳児保育の質向上を支える対話型園内研修の検討：「食」を通した包括的な園理解から KAKEN科学研究費助成事業研究課題

厚生労働省 地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会 参考資料集

［付録］

園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭等管理職者用［A票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

研究協力のお願い

現行の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行され４年が経ちました。それを踏まえて、このたび、日本保育協会の保育科学研究の補助を受けて「乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究」を行うこととなりました。

この研究の目的は、「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の内容を充実させるための研修について調べることで、具体的には次の４点を明らかにします。ａ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の実施状況等。ｂ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等の資質・能力等。ｃ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等が受けた研修の内容と方法等。ｄ．研修の内容や方法と資質・能力の関係。

アンケートに回答いただく方は、園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭などの管理職と、０歳児、１歳児、２歳児の各担当者です。管理職者用のアンケートは次のページからの内容で､回答に要する時間は約10分です。回答は、Googleフォームにお願いいたします（アンケート用紙は回収いたしません)。研究の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、アンケートは、８月10日（水）までにご回答いただきますようお願いいたします。

研究協力にあたり、以下の内容をご確認下さい

・研究への協力は皆様の自由意思に基づくものであり、アンケートにご協力いただけない場合でも不利益を受けることはありません。
・協力をお引き受けいただいたあとでも、Googleフォームに回答しないことによって研究協力を取りやめることができます。Googleフォームへの回答をもって研究協力に同意したこととさせていただきます。
・アンケートは無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。メールアドレスも収集しません。
・研究の成果は、日本保育協会の保育科学研究の報告会や学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報は守られます。
・回収したデータは、研究者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。また、研究終了後は、５年間保管後、適切な方法で廃棄します。
・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。特定の企業等から支援を受けて行うものではなく、利益相反は存在しません。
・研究に関する疑問や質問が生じた場合は、下記連絡先までお問合せください。

＜連絡先＞
大阪府　あまのこどもえん　中島　一
電話；●●●●●●●●●●
メール；●●●●●●●●●●

園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭等管理職者用［A票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

コロナ禍で、日々配慮をしながら、また工夫しながら保育をしてくださっていることに厚くお礼申し上げます。このたびは標記の研究へのご協力、ありがとうございます。回答はGoogleフォーム（この調査票の最終ページにURLとQRコードがあります）に行っていただきます。回答にあたり貴園の郵便番号７桁に電話番号の下４桁をつなげた11桁の数字を、Googleフォームの冒頭にご記入ください。よろしくお願いいたします。

Ⅰ．園のことについてお尋ねします。カタカナを選ぶか、空欄に書いて下さい。

１．貴園の運営主体は　ア．市区町村　　イ．社会福祉法人　　ウ．学校法人　　エ．その他（　　）

２．貴園は保育所ですか、認定こども園ですか

ア．保育所　　イ．幼保連携型認定こども園　　ウ．認定こども園（保育所型）　　エ．認定こども園（幼稚園型）

オ．認定こども園（地方裁量型）

３．２で「イ．幼保連携型認定こども園」と回答された方にお尋ねします。幼保連携型認定こども園になる前についてお答えください。

ア．保育所　　イ．幼稚園　　ウ．新しく創設した　　エ．その他（認可外等）（　　）

４．０歳児、１歳児、２歳児の定員と在籍数、保育者の人数（令和４年５月１日現在）

(1) ０歳児　定員＿＿名　在籍数＿＿名　保育者の人数＿＿人

(2) １歳児　定員＿＿名　在籍数＿＿名　保育者の人数＿＿人

(3) ２歳児　定員＿＿名　在籍数＿＿名　保育者の人数＿＿人

５．あなたの園では、「乳児保育に関する３つの視点」や「３歳未満児の５領域」のねらい及び内容、内容の取り扱いが保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、指針等）に明記されたことによって、次の(1)～(5)を見直し、修正しましたか。それぞれについていずれか１つを選んでください。

	見直していない	見直したが、修正はしていない	見直して修正した
(1) 保育の理念	ア	イ	ウ
(2) 保育の方針	ア	イ	ウ
(3) 保育の目標	ア	イ	ウ
(4) 保育の計画	ア	イ	ウ
(5) 記録の書式	ア	イ	ウ

６．あなたの園では、指針等に基づく乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の『保育内容』に関して、外部研修受講後どのように職員間共有を行いましたか。いずれか１つを選んでください。

ア．受講者が講師となり園内研修を行い、それに基づいて「保育内容」を修正した

イ．受講者が講師となり園内研修を行った

ウ．研修報告書等を資料として、会議で研修報告を行った

エ．研修報告書を回覧した

オ．外部研修は受けたが、職員間共有はしていない

カ．外部研修を受けていない

７．あなたの園では、どの職種の職員が、指針等に基づく乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の『保育内容』に関する外部研修を受講しましたか。該当するものすべてを選んでください。コ．その他を選んだ場合は、具体的にお書きください。

ア．園長　　イ．副園長・教頭　　ウ．主任保育士・主幹保育教諭　　エ．乳児（３歳未満児を含む）クラス主担任

オ．乳児（３歳未満児を含む）クラス担任　　カ．乳児（３歳未満児を含む）以外のクラス担任　　キ．看護師

ク．栄養・調理担当職員　　ケ．事務職員　　コ．その他の職員

８．あなたの園で実施している乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の『保育内容』の評価についてお尋ねします。

⑴　あなたの園では、評価を誰が行っていますか、該当するものすべてを選んでください。

ア．園長　　イ．副園長・教頭　　ウ．主任保育士・主幹保育教諭　　エ．乳児（３歳未満児を含む）クラス主担任

オ．乳児（３歳未満児を含む）クラス担任全員　カ．乳児（３歳未満児を含む）以外のクラス担任

キ．園内のその他の職員　　ク．園外の専門家　　ケ．行っていない（→Ⅱに進んでください）

⑵　評価は、いつ行っていますか、該当するものすべてを選んでください。

ア．毎日　　イ．週ごと　　ウ．月ごと　　エ．期ごと　　オ．年ごと　　カ．不定期

⑶　評価は、どのように行っていますか、該当するものすべてを選んでください。

ア．指導計画等書類から評価している

イ．実際に保育に参加しながら評価している

ウ．実際の保育を参観しながら評価している

エ．公開保育を行い評価している

オ．保育をビデオに撮って評価している

Ⅱ．指針等の告示後に、あなた自身が受けた研修等についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、①園外研修や②園内研修をどの程度受けましたか。1つを選んでください。また、③今後さらに、これらの内容に関して研修を受けたいと思われますか。該当するものをすべて選んでください。

	①園外研修			②園内研修			③今後の研修希望		
	園外研修を受けていない	園外研修を1回受けた	園外研修を複数回受けた	園内研修を受けていない	園内研修を1回受けた	園内研修を複数回受けた	受けたいとは思わない	園外研修を受けたいと思う	園内研修を受けたいと思う
(1) 乳児保育（3歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(11) 1歳以上3歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅲ．指針等に基づく乳児保育（3歳未満児の保育を含む）の内容等に関する理解度についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、クラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できますか。それぞれについてアからエのいずれか1つを選んでください。

	できない	どちらかというとできない	どちらかというとできる	できる
(1) 乳児保育（3歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	エ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	エ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	エ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	エ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	エ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	エ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	エ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	エ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	エ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ
(11) 1歳以上3歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	エ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	エ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	エ

Ⅳ．保育者以外の職員や保護者への周知についてお尋ねします。次の(1)から(14)の内容について、①保育者以外の職員（栄養士、調理員、看護師等）に共通理解を得るためにどのような取組をしていますか。いずれか１つを選んでください。またそれぞれの内容について、②年度当初などに保護者にどのように説明していますか。いずれか１つを選んでください。

	①保育者以外の職員への共通理解				②保護者への説明			
	取組をしていない	園内研修に参加させている	園外研修に参加させている	園内研修と園外研修の両方に参加させている	説明していない	文書を配布している（ホームページへの記載を含む）	口頭で説明している	文書を配布した上で口頭で説明している
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ

Ⅴ．あなた自身のことについてお尋ねします。

１．あなたの役職は何ですか。１つを選んでください。
　ア．園長　　イ．副園長　　ウ．教頭　　エ．主任保育士　　オ．主幹保育教諭　　カ．その他（　　）

２．あなたは保育士資格をもっていますか。　　ア．もっている　　イ．もっていない

３．乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の経験年数をお書きください。経験がない場合は「０」をお書きください。＿＿＿＿＿年

ありがとうございました。

回答はこちらでお願いします。
https://forms.gle/2Csw8Hdyj51RqDHz5

０歳児担当者用［Ｂ票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

研究協力のお願い

現行の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行され４年が経ちました。それを踏まえて、このたび、日本保育協会の保育科学研究の補助を受けて「乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究」を行うこととなりました。

この研究の目的は、「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の内容を充実させるための研修について調べることで、具体的には次の４点を明らかにします。ａ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の実施状況等。ｂ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等の資質・能力等。ｃ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等が受けた研修の内容と方法等。ｄ．研修の内容や方法と資質・能力の関係。

アンケートに回答いただく方は、園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭などの管理職と、０歳児、１歳児、２歳児の各担当者です。各担当者としては、①主担当、②経験年数が中程度の方、③最も経験年数が少ない方（ただし新卒は除く）の３名にお答えいただきます。

０歳児担当者用のアンケートは次のページからの内容で、回答に要する時間は約10分です。回答は、Googleフォームにお願いいたします（アンケート用紙は回収いたしません）。研究の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、アンケートは、８月10日（水）までにご回答いただきますようお願いいたします。

研究協力にあたり、以下の内容をご確認下さい

・研究への協力は皆様の自由意思に基づくものであり、アンケートにご協力いただけない場合でも不利益を受けることはありません。
・協力をお引き受けいただいたあとでも、Googleフォームに回答しないことによって研究協力を取りやめることができます。Googleフォームへの回答をもって研究協力に同意したこととさせていただきます。
・アンケートは無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。メールアドレスも収集しません。
・研究の成果は、日本保育協会の保育科学研究の報告会や学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報は守られます。
・回収したデータは、研究者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。また、研究終了後は、５年間保管後、適切な方法で廃棄します。
・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。特定の企業等から支援を受けて行うものではなく、利益相反は存在しません。
・研究に関する疑問や質問が生じた場合は、下記連絡先までお問合せください。

＜連絡先＞
大阪府　あまのこどもえん　中島　一
電話；●●●●●●●●●●
メール；●●●●●●●●●●

０歳児担当者［Ｂ票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

コロナ禍で、日々配慮をしながら、また工夫しながら保育をしてくださっていることに厚くお礼申し上げます。このたびは標記の研究へのご協力、ありがとうございます。回答はGoogleフォーム（この調査票の最終ページにURLとQRコードがあります）で行っていただきます。回答にあたり貴園の郵便番号７桁に電話番号の下４桁をつなげた11桁の数字を、Googleフォームの冒頭にご記入ください。よろしくお願いいたします。

Ⅰ．指針等の告示後に、あなた自身が受けた研修等についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、①園外研修や②園内研修をどの程度受けましたか。1つを選んでください。また、③今後さらに、これらの内容に関して研修を受けたいと思われますか。該当するものをすべて選んでください。

	①園外研修			②園内研修			③今後の研修希望		
	園外研修を受けていない	園外研修を1回受けた	園外研修を複数回受けた	園内研修を受けていない	園内研修を1回受けた	園内研修を複数回受けた	受けたいとは思わない	園外研修を受けたいと思う	園内研修を受けたいと思う
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅱ．指針等に基づく乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の内容等に関する理解度についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、クラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できますか。それぞれについてアからオのいずれか１つを選んでください。

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	保育者の集団や組織、園全体をリードできる
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	エ	オ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	エ	オ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	エ	オ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	エ	オ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	エ	オ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	エ	オ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	エ	オ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	エ	オ

Ⅲ．あなたは①ねらい及び内容や、②援助（環境構成を含む）に、各視点の(1)から(10)の項目を含む指導計画を、どの程度立てられますか。それぞれについて該当するもの１つを選んでください。

	①ねらい及び内容			②援助（含：環境構成）		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
1．身体的発達に関する視点（健やかにのびのびと育つ）						
(1) 心と体の発達の促し	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 体を動かす機会の確保	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 自ら体を動かそうとする意欲の育成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 生理的・心理的欲求の受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 一人一人の発育に応じた経験の助長	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 個人差に応じた授乳	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) ゆったりとした授乳	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 体調に対応した離乳食	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 生活リズムに応じた睡眠	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 適切なおむつ交換	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
2．社会的発達に関する視点（身近な人と気持ちが通じ合う）						
(1) 一人一人とのスキンシップ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 甘えなどの依存欲求の充足	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 人に触れられて心地よいと感じるような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 表情などからの気持ちの受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 発声、喃語などへのゆったりとやさしい応答	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 積極的な言葉のやりとり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 一緒にいることを喜ぶような声かけ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 一人一人への優しい対応	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 親しみの気持ちを表せる工夫	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 気持ちを理解した受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
3．精神的発達に関する視点（身近なものと関わり感性が育つ）						
(1) 興味や関心をもてるような環境との関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 音、形、色、手触りなどを考慮した玩具での遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 感覚の発達を促すような玩具での遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 探索意欲を促す活動	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 表現しようとする意欲の受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 発達に即した絵本での遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 様々な色彩や形のものを見る機会	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) あやし遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) リズムを伴った触れ合い遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 十分に安全点検がなされた身の回りのものでの遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅳ．あなた自身のことをお尋ねします。

１．現在の担当　（＿＿＿＿歳児担当）

２．０歳児、１歳児、２歳児の担当経験は通算何年何か月ですか

　０歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　１歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　２歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

３．認可保育所または認定こども園（公営・民営）における保育者としての通算勤務年数は何年何か月ですか

　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

４．保育士資格の取得方法について、いずれかを選んでください。

　ア．大学・短期大学・専修学校等の指定保育士養成施設　　イ．保育士試験

５．保育士資格を取得された年を和暦を選んだ上でお書きください。

　ア．昭和　　イ．平成　　ウ．令和　＿＿＿＿年

６．あなたの現在の雇用形態について、いずれかを選んでください。

　ア．正規職員　　イ．非常勤職員（パート）　　ウ．派遣職員

ありがとうございました。

回答はこちらでお願いします。
https://forms.gle/g2aSu37zzb4F8yBR9

１歳児担当者用［C票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

研究協力のお願い

現行の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行され４年が経ちました。それを踏まえて、このたび、日本保育協会の保育科学研究の補助を受けて「乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究」を行うこととなりました。

この研究の目的は、「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の内容を充実させるための研修について調べることで、具体的には次の４点を明らかにします。a.「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の実施状況等。b.「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等の資質・能力等。c.「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等が受けた研修の内容と方法等。d.研修の内容や方法と資質・能力の関係。

アンケートに回答いただく方は、園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭などの管理職と、０歳児、１歳児、２歳児の各担当者です。各担当者としては、①主担当、②経験年数が中程度の方、③最も経験年数が少ない方（ただし新卒は除く）の３名にお答えいただきます。

１歳児担当者用のアンケートは次のページからの内容で、回答に要する時間は約10分です。回答は、Googleフォームにお願いいたします（アンケート用紙は回収いたしません）。研究の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、アンケートは、８月10日（水）までにご回答いただきますようお願いいたします。

研究協力にあたり、以下の内容をご確認下さい

・研究への協力は皆様の自由意思に基づくものであり、アンケートにご協力いただけない場合でも不利益を受けることはありません。
・協力をお引き受けいただいたあとでも、Googleフォームに回答しないことによって研究協力を取りやめることができます。Googleフォームへの回答をもって研究協力に同意したこととさせていただきます。
・アンケートは無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。メールアドレスも収集しません。
・研究の成果は、日本保育協会の保育科学研究の報告会や学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報は守られます。
・回収したデータは、研究者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。また、研究終了後は、５年間保管後、適切な方法で廃棄します。
・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。特定の企業等から支援を受けて行うものではなく、利益相反は存在しません。
・研究に関する疑問や質問が生じた場合は、下記連絡先までお問合せください。

＜連絡先＞
大阪府　あまのこどもえん　中島　一
電話；●●●●●●●●●●
メール；●●●●●●●●●●

１歳児担当者用［C票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

コロナ禍で、日々配慮をしながら、また工夫しながら保育をしてくださっていることに厚くお礼申し上げます。このたびは標記の研究へのご協力、ありがとうございます。回答はGoogleフォーム（この調査票の最終ページにURLとQRコードがあります）で行っていただきます。回答にあたり貴園の郵便番号７桁に電話番号の下４桁をつなげた11桁の数字を、Googleフォームの冒頭にご記入ください。よろしくお願いいたします。

Ⅰ．指針等の告示後に、あなた自身が受けた研修等についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、①園外研修や②園内研修をどの程度受けましたか。1つを選んでください。また、③今後さらに、これらの内容に関して研修を受けたいと思われますか。該当するものをすべて選んでください。

	①園外研修			②園内研修			③今後の研修希望		
	園外研修を受けていない	園外研修を1回受けた	園外研修を複数回受けた	園内研修を受けていない	園内研修を1回受けた	園内研修を複数回受けた	受けたいとは思わない	園外研修を受けたいと思う	園内研修を受けたいと思う
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅱ．指針等に基づく乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の内容等に関する理解度についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、クラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できますか。それぞれについてアからオのいずれか１つを選んでください。

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	保育者の集団や組織、園全体をリードできる
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	エ	オ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	エ	オ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	エ	オ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	エ	オ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	エ	オ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	エ	オ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	エ	オ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	エ	オ

Ⅲ．あなたは①ねらい及び内容や、②援助（環境構成を含む）に、各領域（1）から（10）の項目を含む指導計画を、どの程度立てられますか。それぞれについて該当するもの１つを選んでください。

	①ねらい及び内容			②援助（含：環境構成）		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
１．健康の領域						
（1）安定感をもって生活すること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（2）生活リズムの形成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（3）走る、飛ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（4）清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（5）ゆったりとした排泄を促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（6）身体を動かそうとする意欲の育成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（7）食べる喜びや楽しさを味わえること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（8）個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（9）食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（10）基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
２．人間関係の領域						
（1）人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（2）他の子どもとの多様な関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（3）自ら決まりの大切さに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（4）他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（5）気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（6）思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（7）不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（8）様々な人がいることへの気付きを促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（9）自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（10）相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
３．環境の領域						
（1）見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（2）玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（3）物の性質や仕組みに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（4）自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（5）身近な生き物に気付き、親しみをもつこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（6）地域の生活に対する興味や関心	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（7）感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど子どもの発達に応じた適切な玩具で遊ぶこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（8）発見を楽しんだり、考えたりすること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（9）生命の尊さに対する気付きを促す関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（10）社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
４．言葉の領域						
（1）自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（2）生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（3）心のこもった日常の挨拶	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（4）人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（5）言葉のやり取りを楽しめるような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（6）状況を説明する言葉などを補う援助	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（7）思いを察し、共感した受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（8）言葉の習得段階に応じた関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（9）絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
（10）言葉のやり取りができるような援助	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

5．表現の領域	①ねらい及び内容			②援助（含：環境構成）		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 自分なりにイメージを広げて表現すること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 様々な素材に触れること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 身体の動きを表現できること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) イメージや感性を豊かにする経験ができること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 試行錯誤しながら様々な表現を楽しむこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 自分の力でやり遂げる充実感に気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 自信を持って表現できるような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 発見や心が動く経験	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅳ．あなた自身のことをお尋ねします。

１．現在の担当　（＿＿＿＿歳児担当）

２．０歳児、１歳児、２歳児の担当経験は通算何年何か月ですか

０歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　１歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　２歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

３．認可保育所または認定こども園（公営・民営）における保育者としての通算勤務年数は何年何か月ですか

＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

４．保育士資格の取得方法について、いずれかを選んでください。

ア．大学・短期大学・専修学校等の指定保育士養成施設　　イ．保育士試験

５．保育士資格を取得された年を和暦を選んだ上でお書きください。

ア．昭和　　イ．平成　　ウ．令和　＿＿＿＿年

６．あなたの現在の雇用形態について、いずれかを選んでください。

ア．正規職員　　イ．非常勤職員（パート）　　ウ．派遣職員

ありがとうございました。

回答はこちらでお願いします。

https://forms.gle/xY27ZedELnZNEAbP6

２歳児担当者用［D票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

研究協力のお願い

現行の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行され４年が経ちました。それを踏まえて、このたび、日本保育協会の保育科学研究の補助を受けて「乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究」を行うこととなりました。

この研究の目的は、「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の内容を充実させるための研修について調べることで、具体的には次の４点を明らかにします。ａ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」の実施状況等。ｂ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等の資質・能力等。ｃ．「乳児保育」と「３歳未満児の保育」を実施している保育者等が受けた研修の内容と方法等。ｄ．研修の内容や方法と資質・能力の関係。

アンケートに回答いただく方は、園長・副園長・教頭・主任保育士・主幹保育教諭などの管理職と、０歳児、１歳児、２歳児の各担当者です。各担当者としては、①主担当、②経験年数が中程度の方、③最も経験年数が少ない方（ただし新卒は除く）の３名にお答えいただきます。

２歳児担当者用のアンケートは次のページからの内容で、回答に要する時間は約10分です。回答は、Googleフォームにお願いいたします（アンケート用紙は回収いたしません）。研究の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、アンケートは、８月10日（水）までにご回答いただきますようお願いいたします。

研究協力にあたり、以下の内容をご確認下さい

・研究への協力は皆様の自由意思に基づくものであり、アンケートにご協力いただけない場合でも不利益を受けることはありません。
・協力をお引き受けいただいたあとでも、Googleフォームに回答しないことによって研究協力を取りやめることができます。Googleフォームへの回答をもって研究協力に同意したこととさせていただきます。
・アンケートは無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。メールアドレスも収集しません。
・研究の成果は、日本保育協会の保育科学研究の報告会や学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報は守られます。
・回収したデータは、研究者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。また、研究終了後は、５年間保管後、適切な方法で廃棄します。
・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。特定の企業等から支援を受けて行うものではなく、利益相反は存在しません。
・研究に関する疑問や質問が生じた場合は、下記連絡先までお問合せください。

＜連絡先＞
大阪府　あまのこどもえん　中島　一
電話；●●●●●●●●●●
メール；●●●●●●●●●●●

２歳児担当者用［D票］

乳児保育の３つの視点と３歳未満児の５領域のねらい及び内容を反映した保育を可能にする研修に関する研究

コロナ禍で、日々配慮をしながら、また工夫しながら保育をしてくださっていることに厚くお礼申し上げます。このたびは標記の研究へのご協力、ありがとうございます。回答はGoogleフォーム（この調査票の最終ページにURLとQRコードがあります）で行っていただきます。回答にあたり貴園の郵便番号７桁に電話番号の下４桁をつなげた11桁の数字を、Googleフォームの冒頭にご記入ください。よろしくお願いいたします。

Ⅰ．指針等の告示後に、あなた自身が受けた研修等についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、①園外研修や②園内研修をどの程度受けましたか。1つを選んでください。また、③今後さらに、これらの内容に関して研修を受けたいと思われますか。該当するものをすべて選んでください。

	①園外研修			②園内研修			③今後の研修希望		
	園外研修を受けていない	園外研修を1回受けた	園外研修を複数回受けた	園内研修を受けていない	園内研修を1回受けた	園内研修を複数回受けた	受けたいとは思わない	園外研修を受けたいと思う	園内研修を受けたいと思う
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅱ．指針等に基づく乳児保育（３歳未満児の保育を含む）の内容等に関する理解度についてお尋ねします。あなたは、次の(1)から(14)の内容に関して、クラス懇談や個人懇談などで保護者に説明することがどの程度できますか。それぞれについてアからオのいずれか１つを選んでください。

	できない	教えてもらってできる	自分の力でできる	他の保育者を指導できる	保育者の集団や組織、園全体をリードできる
(1) 乳児保育（３歳未満児の保育を含む。以下同じ）の役割と機能	ア	イ	ウ	エ	オ
(2) 乳児保育の現状と課題	ア	イ	ウ	エ	オ
(3) 乳児保育における安全な環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(4) 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境	ア	イ	ウ	エ	オ
(5) 他職種との協働	ア	イ	ウ	エ	オ
(6) 乳児保育における配慮事項	ア	イ	ウ	エ	オ
(7) 乳児保育における保育者の関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(8) 乳児保育における生活習慣の援助や関わり	ア	イ	ウ	エ	オ
(9) 保育所保育指針について	ア	イ	ウ	エ	オ
(10) 乳児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(11) １歳以上３歳未満児の発達と保育内容	ア	イ	ウ	エ	オ
(12) 全体的な計画に基づく指導計画の作成	ア	イ	ウ	エ	オ
(13) 観察を通しての記録及び評価	ア	イ	ウ	エ	オ
(14) 評価の理解及び取組	ア	イ	ウ	エ	オ

Ⅲ．あなたは①ねらい及び内容や、②援助（環境構成を含む）に、各領域の(1)から(10)の項目を含む指導計画を、どの程度立てられますか。それぞれについて該当するもの１つを選んでください。

	①ねらい及び内容			②援助（含：環境構成）		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
１．健康の領域						
(1) 安定感をもって生活すること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 生活リズムの形成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 走る、飛ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) ゆったりとした排泄を促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 身体を動かそうとする意欲の育成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 食べる喜びや楽しさを味わえること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
２．人間関係の領域						
(1) 人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 他の子どもとの多様な関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 自ら決まりの大切さに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 様々な人がいることへの気付きを促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
３．環境の領域						
(1) 見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促すこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 物の性質や仕組みに気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 身近な生き物に気付き、親しみをもつこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 地域の生活に対する興味や関心	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど子どもの発達に応じた適切な玩具で遊ぶこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 発見を楽しんだり、考えたりすること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 生命の尊さに対する気付きを促す関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
４．言葉の領域						
(1) 自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 心のこもった日常の挨拶	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 言葉のやり取りを楽しめるような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) 状況を説明する言葉などを補う援助	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 思いを察し、共感した受け止め	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 言葉の習得段階に応じた関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 言葉のやり取りができるような援助	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

5．表現の領域	①ねらい及び内容			②援助（含：環境構成）		
	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる	立てられない	自分の力で立てられる	他の保育者を指導できる
(1) 歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(2) 自分なりにイメージを広げて表現すること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(3) 様々な素材に触れること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(4) 身体の動きを表現できること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(5) 様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(6) イメージや感性を豊かにする経験ができること	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(7) 試行錯誤しながら様々な表現を楽しむこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(8) 自分の力でやり遂げる充実感に気付くこと	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(9) 自信を持って表現できるような関わり	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
(10) 発見や心が動く経験	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

Ⅳ．あなた自身のことをお尋ねします。

１．現在の担当　（＿＿＿＿歳児担当）

２．０歳児、１歳児、２歳児の担当経験は通算何年何か月ですか

０歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　１歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月　　２歳児　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

３．認可保育所または認定こども園（公営・民営）における保育者としての通算勤務年数は何年何か月ですか

＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

４．保育士資格の取得方法について、いずれかを選んでください。

ア．大学・短期大学・専修学校等の指定保育士養成施設　　イ．保育士試験

５．保育士資格を取得された年を和暦を選んだ上でお書きください。

ア．昭和　　イ．平成　　ウ．令和　＿＿＿＿年

６．あなたの現在の雇用形態について、いずれかを選んでください。

ア．正規職員　　イ．非常勤職員（パート）　　ウ．派遣職員

ありがとうございました。

回答はこちらでお願いします。

https://forms.gle/RtAZYap9K9ms4ZuC6